

午後1時30分開会

○松本座長 皆様、こんにちは。大変長らくお待たせいたしました。これより平成30年度区民集会を開会させていただきます。

本日は、ご来場いただきまして、まことにありがとうございます。私は、千代田区議会議長、区民集会運営協議会座長の松本佳子でございます。よろしくお願い申し上げます。

(拍手)ありがとうございます。本日の会の進行をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

会を始めるに当たり、本日の区民集会を主催しております区民集会運営協議会のメンバーを紹介させていただきます。委員の皆様、恐れ入りますが、ご起立をお願いいたします。

〔協議会メンバー起立〕

○松本座長 連合町会長さん8名様、議会代表13名様、どうぞご起立くださいますよう、お願い申し上げます。その席でどうぞ。(発言する者あり)

こちらのメンバーで進めさせていただきますので、どうぞ皆様よろしくお願い申し上げます。(拍手)ありがとうございました。

そのほかにも、今回の運営には、全議員がそれぞれ担当を持って当たっておりますが、紹介は割愛させていただきます。

次に、本日の流れをご説明いたします。

まず、この後、本区では様々な形で水辺環境の向上に取り組まれていらっしゃる5人のパネリストの方々の取り組みについて、それぞれご説明をいただきます。一旦休憩を挟んでパネルディスカッション、質疑応答を行い、終了といった形の流れで進めさせていただきますと思いますので、よろしくお願い申し上げます。おおむね2時間程度を予定しておりますので、ご了承ください。

それでは、パネリストの方々をご紹介します。

まず初めに、建築家・都市景観プランナーの阿部彰様でございます。(拍手)今回、パネルディスカッションのコーディネーター役をお願いしてございます。

次に、建築家、画家として活躍されていらっしゃいます、木下栄三様でございます。(拍手)江戸城の歴史や神田の風景などに造詣が深く、数々の作品を手がけていらっしゃっております。

続いて、元都庁職員として、建築局総合調整担当部長、港湾局臨海開発部長などを歴任されました高松巖様でございます。(拍手)

続きまして、秋葉原和泉橋防災船着き場を中心に舟運観光に取り組まれる、ガイドツアーも務められていらっしゃいます岡田邦男様でございます。(拍手)

最後に、千代田区環境まちづくり部長として、環境保全やヒートアイランド対策の事業等に取り組まれております保科彰吾様でございます。(拍手)

以上、5人のパネリストの方をご紹介します。

では、早速パネリストの方々のご意見をお聞きさせていただきたいと思います。ここからは、コーディネーター役の阿部様に交代させていただきます。

阿部様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○阿部氏 どうも皆さん、こんにちは。阿部でございます。不慣れなことでございますけれども、コーディネーター役を仰せつかりました。これから進めさせていただきますが、

こうやって区議会と区民が一緒になって一つの勉強をして、これからの方向づけをしていこうという千代田区さんのこの試みというのを、私ども、大変耳新しくというか、今後の可能性について、大変敬服しております。楽しみにしております。どうぞよろしくお願い致します。

私は、建築とか、都市環境をやっておりますが、それ以前に、まちふねみらい塾の、高松もそうなんですが、まちふねみらい塾って一体何なのかということで、そんなに知名度が高いわけじゃございませんが、4年前から、まちと水辺に特化したまちづくりの提案をいろいろさせていただいているという立場でございます。

これまた、阿部彰は一体何者かというのは、特に千代田区さんの皆さんには、十分に、知名度があるわけではございませんが、ざっと、こんなことをやってまいりましたということです。私の出だしは、かなり千代田区との縁が深くございまして、霞が関ビルが、私の仕事の第1番目でした。全く、建築の設計事務所に入って初めてのことで、エレベーターの計画ですとか、いわゆるトイレなんかの規模計画等々に関しての仕事をずっとやってまいりました。

それは三井不動産の仕事でございますが、それから新宿三井ビルに、こう行くんですが、千代田区のお仕事に特化してお話ししますと、千代田区では、三井記念病院という和泉町にあって、もう、この建物も新しくなっていました。

で、その後、御茶ノ水の聖橋にある新お茶の水ビルと井上眼科病院のプロジェクトをやりました。あれは、その当時、ちょうどデモが華々しかったのが昭和40年代でございますが、そのころ、聖橋口というと、もう混雑して、何ともしようがない改札口だったんですが、それを、あそこに広場をつくることによって、聖橋口の混雑を緩和したというものでございます。で、その後、この辺ですか、神尾記念病院という、やっぱり淡路町公園の前に、耳鼻科に特化した病院でございますが、象さんの、こう、看板がついているビルでございます。

まあ、そんなことをこう、やりながら、ずっと建築と、大学のほうでは都市環境を教えてまいりました。で、大学の都市環境の中で、水辺ということに、かなりテーマを追って、学生たちにいろんな提案をさせてまいりました。大体、今世紀に入ってから、少し水辺のことに特化した、いろんなプロジェクトをするようになってまいりました。そんなご縁で、法政大学の陣内秀信先生との縁ができて、エコ地域デザイン研究センターというところに所属してまいりました。

で、きょう、一体、私は何を、お話を申し上げるかということ、ここに控えておる4人の先生方に対する問題提起も多少含めてですが、中で、先生方があんまりさわらない防災の部分とか、そういうところにはちょっとこう触れながら、事を進めていきたいと思えます。

防災船着き場というのが、この神田川にも日本橋川にも、いっぱいあります。で、いっぱいあるというよりは、東京都の中で、防災船着き場というのは、ここにちょっと、こう、見にくいかもしれませんが、130カ所、東京都は——まあ、各、国もつくりましたし、区もつくった130カ所。一体何のために130カ所つくったのかということになるんですが、とにかくつくったということです。で、それが、このところどこに何が書いてあるかというと、船着き場って、この区役所の脇にもある船着き場の形、あとは和泉橋にある形、日本橋にある形、それぞれ思い浮かべてみると、大分それぞれの形が変わっている。じゃ

あ、形が変わっているということは、着ける船というのもちろんとイメージしてあるんだろうということなんですが、どうもこの130カ所を、去年おとし全部調べてみると、余りにもさまざまで、一体何に、どう使おうとしているのかというのが明確にはわかっていない。ただ、130カ所ありました、で、千代田区にはこれだけの数がありますというのは後で紹介しますが、一体、この防災船着き場というものをづくりながら、各地域の防災計画書の中に、この防災船着き場をどう使うということがちゃんと明記されている区は1カ所もないです。ですから、防災船着き場と各区の防災計画書とは、全くリンクしていないということですから、区民が、この一番上のやつは、一体この区民は、防災船着き場という存在を知っているのかということ、ほとんどの人が知らない。恐らく、ここにいる議員さんも、ご自身の区の部分は、多少わかるかもしれないけど、よその区のことになると全くわからないというのが、現状ではないかと思えます。

重要なのは、これは自分の区にあるから、自分の区だけの問題で使っているのかということに対しては、大変問題があります。例えば医療区。これは、東京都の設定でいくと、区の中心部、中央、千代田、港、文京、台東、この五つの区が一つの、要は医療圏になっています。で、ここの中に病院が、実はいっぱいあるんです。で、病院とすれば過剰区です。それは夜間人口と昼間人口の比率だし、ここは日本の中心ですから、ある種、世界的な病院がある。その中に、東京都が、というか国の施策とすれば、全てベッド数はどんな目的に使おうと共通で、10万人当たり何ベッドということでごう、決めただけです。

少なくとも、この区の病院たちは、この今の申し上げた五つの区が、ちゃんごう、うまく使わなくちゃいけない。この中で重要なのは、千代田区は、後で出てきますが、かなり病院はそろっているわけですが、中央区は聖路加病院1個しかない。例えば月島・晴海には1個の病院もないわけです。そういう人たちが震災を受けたときに、この区の病院に、まあ、要は運び込まれなくちゃいけない。じゃあ、そういう形がちゃんと五つの区でどういうふうにするのかというのが、協定がちゃんと結ばれているかということ、恐らく結ばれているかということ、恐らく結ばれていないか、全く結ばれていないというのが問題です。

今ここにあるこの部分というのは、もうやがて、選手村もできていくと、約10万人の人たちが住むんですが、ここに高機能病院が全くない。しかも、恐らく、ここは液状化する。道路が液状化するおそれがありますから、防災船着き場、船着き場をもって、この中心部の病院にアクセスしてこないといけない。ところが、この中に、実は防災船着き場というのがなかったりするわけです。ですから、そういうことが全都的、少なくともこの中央部の中で、ほとんど話題になっていないという問題があるということです。

この中に、今、千代田区の、この神田川と日本橋川の絵があって、ここにさまざまな防災船着き場があって、しかも紫色のものは、ある病院をプロットしている。結構この川沿いに病院があるということだけは明確にプロットされるわけです。で、こういう船着き場があって、ひとつ、この後楽園のところにあるのは、これは文京区さんの防災船着き場ですから、ある種、千代田区には関係ないと言いながら、さっきの医療圏で言うと密接に関係するわけです。

この船着き場って、何となく今お手入れが悪くて、ごう、ちょっと傾いている。と同時に、この船着き場、何かのときごらんになっていただくといいと思うんですが、もともと、

小石川という川がここに流れ込んでいるために、ちょうどここに下水が、というか、雨水が大きく流れたときに、この船着き場のところに流れ込んでくるという位置関係にある、そんなディテールがよくわかります。

あと、これは、万世橋のところにある船着き場、これも船着き場、これで人が人をどうやって運び入れるんだということに対して、こう、極めて疑問があるわけです。で、こんなところに果たして船着き場があってもいいのかわかるということになるわけですが、ちょっと水道橋のほうによけると、ちょうど神田川のバイパスのところに、ここなら、バリアフリーの、しかも順天堂とか、その辺にアクセスしていくことができる船着き場ができるはずだと。だから、病院との関係も極めて悪い。

あとは、船着き場というのは、もう一つの役割は、内陸部に物資を運ぶ。あとは、内陸部の帰宅困難者を、自分のお家のほうへ戻すということなんですが、飯田橋のあたりのところに船着き場があってもいいのかわかるべきだけれども、ない。あとは、浅草橋の入り口のところも、きっと重要な拠点になるはずだとか、あとは、ちょうど常盤橋をちょっと、こう、一番右のやつは常盤橋。あれも東京駅に非常に近いところにあるのに、せっかくのこの計画を持っておられるとすれば、ここに船着き場があってもいいんじゃないか。この左側は、ちょうど千代田の税務事務所のあたりのところに、非常にいい空き地があって、こういうところに船着き場があってもいいんじゃないかということなんです。

で、もう一回、病院に話を戻しますと、千代田区のこの船着き場、これはフロート型じゃないですから、満潮と干潮で水位が大分変わってくる。で、固定型の船着き場は、非常に使いにくいんですが、重要なのはここに九段坂病院が新しく、真横にできているようなものですから、この船着き場とこの九段坂病院というのは密接な関係を持っているんですけど、これでいいんでしょうかということなんです。例えば、三井記念病院も、この和泉橋の防災船着き場との関係がこうあるんですが、ここには階段があって、決してバリアフリー、ストレッチャーでここに運び込むというのは難しいことです。

次に話題になるのは、高速道路が撤去されるということに対して、当初、発表されたのは、この竹橋から江戸橋まで外しましょうということで発表されて、その部分を地下化しましょうということで、日本橋のところから高速道路がなくなるということだったんですが、さっきの防災船着き場の関係で、もう一回復習してみますと、高速道路の下に防災船着き場があって、これは果たして、ちゃんと機能するのだろうか。で、高速道路の上で何かトラブルが起きれば、恐らくこの日本橋川は通行止めになるだろうということから見ると、あんまりいいことじゃないと。せっかく竹橋から江戸橋まで外そうということだったのに、千代田区さんは、一体それを、今、置いてきぼりにされたんだけど、今や神田橋から江戸橋までの1.8キロということで、竹橋ー神田橋間が、その問題の外になってしまったということがあります。

これは、どうも常盤橋から日本橋、恐らく大手町からと本当は言っているんだと思うんですが、再開発と地下化というのを密接にリンクさせようというもろみがあったんですが、大手町、常盤橋のところに関しては全く関係がなくなったというのも、千代田区さんとして、皆さんどう、これを捉えたのだろうかというのは、ちょっと私どもとしては、疑問に思います。実際に今、現実的になっているのは、ちょうど今、これは、元の郵政があったところのここに、八重洲の地下に入っていく通路がありますが、これを生かしていく

ということですから、ここから左のほうは撤去しないということであるかに思います。まあ、こんなようなことが進んでいるということです。

あと、下水の問題というのは水の浄化に大変あれなんですけど、合流式なのか分流式なのかということでいろいろ東京都は、分流式にしますと言ったんだけど、今は分流式はやめました。ということで、いろんな、東京都も、いわゆる日本橋川、神田川に流れる水のコントロール、汚染問題をどうしていくかということ。これは、いろいろ聞いてみると、いろんな工夫をしているんです。分流式じゃなくても十分にきれいにするんですよという方法を、今、東京都は、一番わかりやすいというか、なかなかこの下水のことってわかりにくいんですが、飯田橋のあたりのところに、今、立坑をつくった工事をしている。これは外濠に流れ込む下水をどうコントロールしようかということで、いろいろやっている。これは、下水道局に1回ちゃんと説明していたことがいいんじゃないかと思います。

あと、重要なテーマとして進んでいるのは、今、外濠のしゅんせつということで、間もなくしゅんせつが始まるようですが、今、パイプがいけてあって、ここの中で、このヘドロを全部かい出して、埋立地に船で運ぶんですという計画が、ちょうど外濠のところで発表されている。これは、マラソンのコースが外濠のところを歩いていくわけですが、果たしてこれでいいのかということの問題提起している部分でもあります。

一方では、この間の、この前の回の区民集会で、山田正先生に来ていただいて発表した絵の1枚ですが、しゅんせつするのはいいんだけど、この外濠には水が流れ込んでこないとずっと死に水ですから、やっぱりまた、アオコが起こるとということで玉川上水をここまで持ってこようという運動がずっとあります。これに関しても、いろんなこう、模索をしている。現実的なところというのは、四谷大木戸からこの外濠まで、ここにちゃんとその通路があるかどうか。で、これは、言うなら、流してみようよということ、この運動を千代田区さんが、もうそろそろ、ご自身の問題として、要は運動なさっていただくということになると、これは現実的なものになるんじゃないかと。どのくらいの効率で、ちゃんと外濠に流れ込んでくるかということを試してみないことにはいけないんですが、要は、流れができればきれいになっていくという一つの方向が見えてくる。あとは量の問題だと。山田先生は、玉川上水のある量を設定すると、ここに十分入ってくるはずだということをおっしゃっているわけです。まあ、これがちょっと、今、きょう4人の先生方の中から、ちょっと話題として外れるので私が触れました。

で、もう一つ観光的な側面というか、歴史、文化的な側面、これは、これから説明していただく先生方に多少触れていただければありがたいと思うんです。私は、少し、いわゆるこの50年間ぐらいを振り返ってみますと、上の写真と下の写真って、大体50年の差があります。これはパレスサイドビルが竣工したときの、本に載っている、そのときの丸の内、何かこの辺に東京タワーがぼちっとう、見える。ちょうど昭和40年ぐらいの写真です。

この当時は、丸の内は、大手町は、全部31メートルの高さに、建物の高さをそろえようということでした。そういう流れの中で、我々まだ若いころは、東京駅から内濠、いわゆるお濠は、そんなに遠くはなかった。要は行ってみようということですが、今こういう状態になると、完全にお濠が、同じ距離なんだけど、視覚的には遠くなってしまったという事実ではないかと思います。

その途中、昭和41年から昭和43年の間に、ここにいる皆さんはお若いですから、ただ、我々と同じぐらいのお年の方もいらっしゃるかと仮定すると、美観論争ということがありました。これは国会も巻き込んで、美観ということをしたんですが、31メートルにせっきくそろえようとしたのに、東京海上ビルが126メートルの建物を建てようとしたわけです。これが国会でも問題になって、100メートルに抑えたと。ところが、それが今になってくると、あの100メートル、美観論争の問題って一体どうなったのかという、誰も知らない間にこういうものがどんどんこうできてくるというのが一つあります。

それと、先ほどの高速道路の問題に戻ることにになりますが、日本橋から空を取り戻そうと言っていることなんですが、何で神田橋から空を取り戻そう、一ツ橋から空を取り戻そうというのが、千代田区さんの中で議論にならないのかと。ひょっとして、そちらのほうが一—もう、そろそろ時間ですね。（「あと何分」と呼ぶ者あり）はい。急ぎます。

で、いろんな水辺とのかかわりがようやくここで入ってくるんですが、いわゆる大手町の遊歩道というのを、千代田区さんのご指導でもどんどん整備されて、それはそれでいいんですが、親水公園という名前がついているのに、何でもっと水際に近いところまで、この、同じレベルでやらなくても、掘り込んでいくことができるじゃないかと。なぜ、それを私が申し上げるかということ、実は皆さんも船に乗っておわりのとおり、水の中から見ると、実は歴史物がいっぱいあるんです。その上にまちが成立、現代のまちが成立しているんだというのは、実は水の上からだとは非常によくわかる。この石垣がそうですし、この辺の復興橋が、みんなとにかく、百年、何百年というものが、ここに積み上がっているということです。

日本橋が日本の起点だと言われていますが、実は、やっぱり日本の起点は江戸城なんです。ですから、外濠がこうやってある、そこにいろんな門がある。これが、実は日本の街道の原点だということです。その中で重要なのが、私は、筋違門、外神田一丁目のマーチエキュートのところに筋違門という門があったということ。これは、実は、この当時は、日本橋以上にぎわいを持っていたというのがこの筋違門です。で、千代田区にこの資産があるということ、これは、今、伊藤滋先生なんかやっている東京文化資源会議、これに密接に絡むものだとということで、実は、ここのマーチエキュートと、その対岸というのが万世橋と昌平橋の間がありますが、ここは重要な起点になるということで、その筋違橋、筋違門をマーチエキュートに例えながら、なぞらえながら、また復元していくということが、十分、千代田区の中に大きな資産として存在するんだということを問題提起させていただきます。

それと、東京ピエンナーレというのが、東京2020というオリンピックに向かって千代田区の3331が会場になって、今、水辺と、要は文化をどうつなげるかということ、今、検討しています。

それと、もう一つ重要なお知らせですが、11月20日に、今、千代田区さんが、日本建築学会と一緒に、「千代田区の水辺を考える」というコンペを募集しています。それが、11月20日に、ここの1階、区民ホールで公開プレゼンテーションというのをやります。ぜひ、皆さん見ていただくと、なかなかこれ、学生とか、いろんな専門の方たちが、このコンペに応募しているという。9作品を、今、選別して、このときに公開プレゼンテーションをしようと思います。いろんなアイデアが出てくると思います。

ちょっと時間をオーバーして、申しわけございません。私の説明と問題提起とさせていただきます。この次は、すみません、次、木下さんにまたバトンタッチして、これから4人の先生方に、ちょっといろいろな問題提起、あとはご自分の活動の解説をしていただきたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

○木下氏 今、ちょっと調整をしていただいていますので。

きょうはですね、私は200万年前から話をしようと思っていたんですけども、ちょっと15分ぐらいでそれをお話ししないといけないということらしいんで、結構大変なんですけれども、ちょっと。あ、それで、私は木下と申します。あそこにある木下設計事務所ですね。「絵空（エクー）」と書いてありますが、絵空、絵そらごとの絵空と書いてエクーなんですけど、これは私の雅号なんです。私は絵描きもやっていますので、建築事務所は内神田でやっております。

それで、きょうは、細かい文字で、ちょっとこれ、読みませんけれども、「江戸の都市計画を現在から未来へ」と。私自身は、歴史としては素人ということですけども、もう建築の設計を神田でもって45年ぐらいやってきています、神田をベースとして。そして、絵も並行に、神田の風景から始まって、東京の風景、あるいは日本、そして世界、行ったり来たりして絵を描いています。その中でいろいろ感じたこともたくさんありますので。

あと、歴史に関連しては、ちょっとの縁で、江戸文化歴史検定試験というんですかね、その試験を受けまして、一応1級なんですけれども、たまにその江戸の話もこう、させていただいています。きょうは、そういうことで、建築をやっている人間——まあ、私は建築の設計だけじゃなくて、河川の例えば堰とか、あるいは水門の設計もある程度こう、都市スケールといいますかね、そういうものも幾つかやってきてまして、その中で歴史と出会ったことによって、一種のこう、化学変化といいますか、そういうものを、こう、しまして、だんだん、絵を描くことも、それから建築を設計することも含めて、都市というものの基盤をまず、考えて、その中の敷地であると。そして、その中の建築であるというふうに考えるようになってきました。これ、本当に正直言いますと、そうやってきたのは40後半だったと思います。30代後半で独立して、自分の事務所で建築を始めるに当たって、やはり自分の生き方というものと絡んできますので。

それで早速なんですけれども、まず、きょう私がここで話をさせていただきたいのは、まず、自分がやってきたことに関連するわけですけども、東京、あるいはその前の江戸ですね、あるいは、この土地というものが、一体どういう歴史をたどってきたかということ、自分なりに勉強はしてきたつもりなんですけれども、やはりいつの時代の中でもそれはすごく大事なことであって、当然、普通は江戸時代といいますか、わかりやすい、これ、記録もたくさん残っていますので、すみません、これは、次のやつは、こうすればいいんですか。

じゃあ、これ、最初、見ていただきますと、時間が余りありませんので、江戸時代のことだけでも、これで1日かかって話をすることはよくあるんですけども、これは皆さん、もう私よりもご存じの方がたくさんいると思いますけど、老月村と真ん中に字が書いてありますけど、日比谷入江がまだ入って、江戸の前島というところが、ああやって突き出ていたわけですね。波食台地といいますけれども、海にさらされていた台地がこう残っているわけですね。

江戸の歴史——江戸の地形というのは後で話を申し上げますけれども、非常にゆったりした勾配の実は盆地なんですね。その盆地であるというところは200年前の話なんで、まさに、なかなか普通の歴史の中では出てこないんですね。次へ行ってください。

先ほどの話は、一応、原点の絵として見ていただきましたけれども、これが江戸の絵図で、一番古い絵図なんですね。慶長7年度の絵図といいますけど、まだ左下がちょっと青紫で、日比谷入江が入っていますね。で、そこから、江戸城は一体どこにあるかという、この形だとなかなかわかりにくいんですけども、これでも北の丸とか、真ん中のちょっと上のほうに、「御城地」と書いてありますけれども、あそこに吹上とか、それから本丸があったという地図になっているんですね。これはまあ、なかなかこの絵図では、よくよく読み込んでいかないと、ああ、この川がこれだな、この台地がこうだなということは難しいと思います。次へ行ってください。

まあ、この辺でやっと江戸の形が出てきて、右の上のほうの隅ですね、これが北の丸だなという、何となく感じがわかってくると思いますね。この時代の地図でも、実は、去年の冬、11月ごろだったですかね、江戸始図ということが新聞に載って、結構話題になったと思うんですけども、初めて家康のつくった江戸城がどういう形であったかということがわかった絵図が出てきたんですね。出てきたというか、前からあったんですけど、それが表に出てきたという言い方をしたほうがいいかもしれませんけど。この図は、もう日比谷入江がなくなりまして、そして家康が入って、領地分けを最初にするわけですね。そして、その領地分けをすると同時に、いろんなもう、大事なものがここから始まるわけですね。大体、慶長9年ごろから、そういう仕事が始まるわけです。この地というのは、桓武天皇の話からすると、江戸氏という人たちが、300年ぐらい、この領地にいたわけですね。今で言えば、豊島氏とか江戸氏とか、あるいは千葉氏とか渋谷氏とか、地名がいっぱい出てくる名前の方が、秩父のほうから、ずっとこう、南におりてきた時期があったんですね。それで300年。

そして、上杉。これは道灌が、そのうち30年ぐらいあるんですけども、上杉で68年間、そして北条で66年間。この道灌が江戸城をつくった、ちょうどこの時代につくったというのはよく聞く話ですけど、実は、最近の新しいお話では、北条も大分江戸城についてはつくっていたんじゃないかということがわかってきたり、あるいは家康の入ったときに寒村であったということではなくて、やはり相当栄えていたということがあった。そのようなことが最近よく耳にする話になってきました。

そして、徳川がいよいよ入って277年、そして現代まで150年と。つまり、861年、この武士から始まって、現代まで続いてきたという、この地の始まりですね。で、たまたまこの黒い、左側の絵図が江戸始図ということで、天守の位置が、こんな形であったんだというのが出てきた図面ですね。で、その右側にあるのは何かというと、この絵図が出てくる、そうですね、3年ぐらい前に、私が江戸城の重ね絵図というものをつくっていたんですね。これは、重ね絵図というのは、実際には宮内庁の管理をしているところが多いんでなかなか入れないんですけども、今は、いろいろ航空写真とかネットとか、いろんな形で、とにかく2年、3年、こうやっていくと、そこら辺の跡もだんだんわかってくるんですね。そして、それを絵に起こしたということですね。そうすると、それが、去年の11月ごろ新聞に発表になった江戸始図というあの黒い部分が、今でもぴったり残ってい

ると。これは皇居へ入らないと本当はわからないんですけども、なかなか我々は普通に行けませんので、実はその跡が今でもしっかり残っているままだと。つまり、皇居というのは、昔の形が残っているというのは、本当に残っていたんです、それがいっぱい。我々が行けないだけで。次行ってください。

これも全体の江戸図で、私の仕事というかライフワークとしては、空から見る、こうやって絵図を自分で——これも自分で書いているんですけども、自分で絵図を描いて、ああ、地下鉄のところ、大体、川のところだとか、こういう絵図を見ながら、いろんなものをこう、何ていうんですかね、わかっていくというか理解をしていくことが大事なことで、それをやっているんですけども。

そして、左のほうにはこういう台地があって、これはいわゆるローム層、大きくは関東ローム層と言いますけれども、M面の武蔵野面というローム層が出ているわけですね。そして、江戸城のところから淀橋台地のあたりだけ違う台地というか、違う質の土質が出てくるわけですね。それらが江戸城とどう関係しているんだろうとか、いろいろこういう——私は建築をやっていますので、ボーリング図とか地質図というのを見るわけですけども、自分で描いた絵図を見ながら、地質がどうであったということを確認しながら、果たしてこういう江戸城というのは、どういうことで、こう、あるんだろうと。次行ってください。

これを見ていただきますと、これ、ちょっとわかりにくい図面なんですけれども、皆さんご存じのように、江戸に家康が入りまして、例えば玉川上水というのが一番有名ですけども、これが実に43キロの長さで、92メートルの高低差で流れていっていると。で、この92メートルの高低差と43キロというのはどういうことかということ、1メートル行って2.1ミリなんです。この恐ろしく緩やかな勾配を、43キロ、まあ平均ですけども、それで続けて玉川の、羽村から水を持ってきたということは、どういうことなんだろうと。我々が今それを感じても、なかなか感じ取れないんですけども、機械がなかった時代に、そういうことができた。その前の神田上水、あるいはほかの上水も幾つかありましたけれども、小石川とか、あるいは、何というんですかね、水たまりとか池とか、そういうものがたくさんありましたから、そういう水はあったんですけど、命をつなぐための道を玉川上水が、いわゆる馬の背、分水界といいますけど、川と川の間、いわゆる流域面積の間のところの一番高いところに玉川上水をずっとつくって、四谷三丁目まで持ってきた。この技術なり江戸の地の理解というのが江戸時代にできたということに対して、まず最初は驚嘆を覚えたんですね。だんだん地盤図とかなんかこうやって見ていきますと、これは実は盆地だったということが、大体200年前にはわかるわけですね。これは歴史の普通の本にはなかなか書いていなくて、やっぱり貝塚さんの本とか、地歴ですね、そういう本を読まない、そこを見てもなかなか難しいんですけども。

ちょうど今、下の江戸湾のあるところに矢印があります。あれが、いわゆる盆地の一番下がったところなんです。そして、じゃあ盆地ですから、皆さんが想像するのは、京都とか奈良の盆地だと思います。真ん中に水平のところがあって、遠くに山々が見えて、ああ、そこに都ができた。真ん中が平らだから、傍条線、傍と条で縦横のまちができていった。この辺は、シカゴでも、アメリカのまちを見ても大体平らなところ、砂漠のところにはできるのは、縦横でできていっていますから、まちの成立ということから考えると、

ごくごく自然だなというのはわかるんですね。

ただ、これを見てみると、先ほど言いました1メートル行って2.1ミリの勾配をつかったということは、この、恐ろしく、恐ろしく恐ろしく緩い勾配の盆地ですね。で、周りの山はどこかという、もう群馬県の山になるんですね。ですから、その辺の山が隆起をして、そして江戸湾が、沈降したというか下がって、で、そういう大きな地盤の動きが何度も何度もあったと思うんですね。でも、その姿を今の玉川上水が引っ張られてきたということを見ると、なるほどこういう地盤だということ为先祖は発見してくれたんだと。その発見する力というのが、まあすごいなということだと思ったわけですね。

ちょっと上のほうに、古河とかそういう地域があるのは、そこも小さな盆地になっているんですね。ですから、関東一円は、北海道の釧路とか石狩とか大きな平野を全部合わせても、もっとそれよりも全然大きい関東平野なんですね、面積で言えば。その大きな中の盆地の一つだと、江戸の地域は。私たちが今住んでいる、仕事をしている地域は。ということから始まって、江戸氏があって、徳川があって、そして今が来たというのが、まずは歴史の話であります。じゃあ、次行ってください。

で、こちら辺はさっと行きたいと思うんですけど、こういう幕末の江戸図があったり、あるいは――次へ行ってください。そして、これを見ていただきますと、家康が入ったときの、いわゆる外濠、内濠の線、そして、先ほどお話ありましたけど、街道ですね、五街道を初め、大山街道とか付属街道とか、いろんな街道がありますけど、それが全て、家康がつくったときの形をなぞってできている。なおかつ、往環道という道まで、今はもっと開発されていると。なぜこうだ、こうなるんだということが、先ほどの盆地なり、最初の点を線に結んで、線を面に結んだという江戸の考え方が、今にこうやって生きているなという。本当にこれが、鳥の目で見た東京なんですね。

ですから、こう、東京都のまちのスケールといたら、じゃあ、どういうことかといいますと――ちょっと、次行ってください。これ、例えば大阪なんですね。大阪も、橋の、八百八橋といいますから、橋がいっぱいあるわけですけども、実は橋の数は東京のほうがやっぱり多いわけですね、実際に数えていくと。日本で、今数えると一番多いのは恐らく岡山で、そして静岡で、それから福岡、その三つぐらいが橋が多い順番の県になって、図らずも、全部「岡」がつくんですね。やっぱり、「岡」のところをゆっくり流れていくところが地名になっているんですね。そこには川がゆったり流れて、橋がたくさんある。で、もちろん大阪も、こうやって淀川を中心にして、北の右上ですか、大阪城がありますけれども――次行ってください。こういう縦横の、どっちかという縦横の道なんですね。ただ、大きな川がありますので、それに影響はされていますけども。はい。次行ってください。

これは京都の昔ですから、ちょっと細いんですね。だんだん京都も面積が変わって、いろいろ動いていますので、これは、当然ながら平城京ですから、縦横になって素直な、何も考えなければこうなるだろうというまちかもしれません。はい。次へ行ってください。

これが現在の京都ですね。大きくなっていますけど、ほとんど変わっていません。はい。次行ってください。

これが名古屋です。名古屋も、熱田台地という、熱田神宮のあるところから大きな台地はあるんですけども、そのほかに堀川といって、新しく掘った川、それに大きく影響され

た土地、都市計画ということになっていますね。次へ行ってください。

これが今の名古屋ですね。縦横はあって、名古屋城があってということですね。はい。そして、次行ってください。

これは、じゃあ、世界を見てみようかということになって、左上がアムステルダムなんですね。オランダのアムステルダム、観光地として有名ですけども、ここは本当に、ゼロ地帯というか、スケールも、この地図は大きく見えますけど、すごく小さいんですね。歩いて——まあ、京都でもそうです、一応、九条から一条まで1日で歩いて行けますから。ここのアムステルダムの市街地でも、京都よりもっと少ないぐらい、歩いて行けるぐらいのスケールなんですね。そして、パリ。ちょっと小さいですけど、左下。これは星が幾つもある、いわゆるバンクの都市計画という特徴が出ているわけですけど、これも、いわゆる放射状と、それから循環という、まあ、環状といいますかね、回っている道がこうやってある。それが幾つか重なってきているという。この辺は、ちょっと、都市づくりの基本にもありますけど、パノプティコンといいますかね、いわゆる管理をする。刑務所もそうですけど、真ん中にいて全て四方見えるようにするとか、そういうこともあったのかもかもしれません。

そして、右のほうがモスクワ。これはちょっと広いんですけども、しかし、先ほどの見ていただいた東京の環状と放射状に比べたら、明らかにちょっと、疎といいますかね、まばらですね。で、次行ってください。

○阿部氏 そろそろ時間です。

○木下氏 あ、すみません。はい。次へ行ってください。

これは、江戸の武家とか、そういう割り振りなんですけど、ほとんど武家がいっぱいで——次へ行ってください。とにかく時間がない。時間とこれから競争になります。

これは明治2年の絵図なんですけど、江戸の瓦解、幕府が瓦解してからは、瞬間的に江戸というのが東京という名前になり、そして、この絵図の中には、もうほとんど軍都と言っていいぐらい、兵隊さんがいっぱい住まうまちになっていますね。4人の幕末のえらい人が、ヨーロッパへ1年、2年近く行って、ヨーロッパを見てきたおかげで、すぐ、こういう富国強兵と欧化主義ということに走ってきましたんで、ここから一遍に東京が変わっていくという最初のときですね。ですから、すぐこうやって中心の施設が、皇居の中でこう、肩がわりしていくわけですね、大名屋敷から。次に行ってください。

そして、これはまあ、わかりにくいかもしれませんが、江戸城を中心に、初めのころは、神田とか浜町あたりにも、宮家とかそれから公家がやっぱり移ってくるんですね、天皇陛下がこっちに来ていますから。それが一日ごとにだんだんだんだん左回りに行って、最後はやっぱり、品川のほうへ行ったり、高くて乾燥していい土地へ行くというのがよく見える絵図ですね。はい。次行ってください。

これは、有名な後藤新平がやった8億円の風呂敷、あるいは、その後もまた、くしくも8億円だったんですけども、震災復興の絵図で。で、この辺で道路が36メートルを42メートルにしようとか、そういう大きな市区改正から始まった大正8年の都市計画の公布ですね。そういう流れの中の一つの震災復興図ということになりますね。はい。次へ行ってください。

これは、中村順平さんが——この中村順平さんというのも建築家なんですけど、この人

が割とまとまな東京に対する都市計画、震災復興計画をやったことの一つかなと思っています。はい。次へ行ってください。

そして、この辺は磯崎新とか丹下健三とか、建築家、スターですね。この人たちは、1970年代とか、60年代から始まって何をしていたかなというのを、自分なりにこう、見るわけですね。そうすると、歴史を頭に入れながらちゃんと都市計画をしてくれた人は、本当にいないなということがわかってきたわけですね。まあ、この時代は私もそうだったかもしれませんが、建築家は、言葉で建築をつくり、夢を語る時代だったんですね。ですから、歴史を余り考えない、丹下健三さんの右のほうの絵は、東京湾の真ん中にビルをいっぱいつくって、海の中の——菊竹さんも沖縄でやりましたけれども、海の上の家とか、そういう時代があって、実際には建築家は何をしていたんだろう、自問自答になるわけですが、そういう時代があったということですね。はい。次行ってください。

で、ここからが本当は話をしたいんですけど、（発言する者あり）私が都市計画をする大事なところで、ここで、あとは話をどれぐらいしていいのかわかりませんが、とにかく、私はずっと江戸城の絵を最近描いていまして、江戸城関連だけで100枚ぐらいの絵をもう描いています。それから、それを都市計画にどうやって持っていったらいいか。つまり、早い話、こういうことなんですね。36御門を全部つくろう。そして、全部掘ろうという、簡単なことを言ったら、そういうことなんです。それで、例えば3.11のとき私は横浜に住んでいて、神田から横浜に戻ろうか、家へ帰ろうか、一体どうしようかというときに、新橋まで行きました。新橋まで行って——私の友達が、それから横浜へ行って、行けなくて、蒲田で寝ました。私は神田に戻りました。そういうことがあったわけですね。

つまり、大事な道が環状線のあちこち、四方八方に放射状に道があるということ。江戸時代からずっと引きずってきたというか、それを受け継いできた大事な考え方があるんだと。あるいは自然の摂理にも倣った土地であるということが、少しずつ少しずつ、鳥の目になったり、アリの目になったりしている中で感じてきたんですね。その中で、門を、大事な門のところの交点に、平均1.2キロごとに門があったんだと。つまり、大事なとき、——大震災はこれからも起きます。起きたときに、家へ帰れるかどうか、とにかくその外濠のところの交点まで行けば、何とかなると。そうすると、そこには、情報センターを全部つくる。ふだんは、カフェでもギャラリーでもいいんですよ。ウィーンみたいにオペラハウスでもいいんですよ。いざというときには、その交点が全部、ここから先は無理ですよとか、あるいはきょうはこの外濠内でみんな寝てくださいとか、そういうことを判断ができるところはつくらないといけない。それが、もう先祖から伝えてくれたものが、どうしてこんなにちゃんとつながっているんだろうということなんですね。はい。次行ってください。

そして、これが大体1.2キロごとに御門をこうやって、で、一体、都市計画は、これから、これを基本に、もう一気にあれですよ、外濠をやるんじゃないかと、全てやっちゃうんですよ、水は。そのかわり300年かかるということはあるんですけども、それを全部掘り起こして、まあ、これは大体私が試算すると60兆ぐらいで300年かかるということがあるんですけども、いわゆる要害で言えば隅田川が一番外の要害になりますので、右のほう。そこまで含めて幅が6メートルで、高さが大体、4.5メートルぐらいの空間です。そこを全て、いいものはちゃんと元に戻そうじゃないかと、そういう考え方です

ね。ですから、三十間濠もあれば、あるいは竜閑濠もあれば、それは本当に戻しちゃっていいの。つまり、そのときには、戻たくて戻したわけじゃないんですね。しょうがないから戻そうと、しょうがないから埋めようとしてきたわけですね。ですから、そういうことを考えると、本当に自分たちが、こう、住んできたこの土地というものを、これから300年後の人に、どうやって残していこうかという。もう東京オリンピックのことは、私、何も考えていないんです。もう300年先のことしか考えていないので、人間は長生きすると、だんだん自分の結果を見ようとするんですけど、それは無理なんですね。

ですから自分の役割を考えていくと、せめて、私はこういうことを人に伝えていくのが役割だなと思って、今も絵を描いて、そして現場を歩き、そして人に伝えて、きょうもこうやって呼んでいただいて、まあ、私だけ多分絵そらごとの話をして、ふわふわとして、ぼーっと聞いていてもいいような話だと思うんですけども、あとは、皆、現実的なことも含めて、がちり、今の中の問題点を拾い上げてくれると思いますので、私は、この辺でふわふわという話を、あと、そうですね、2時間ぐらいしたいんですけど、もう、きょうは、ちょっとこの辺にしておいてあげようというか、この辺にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○阿部氏 どうもありがとうございました。本当の本論は、ここからで、ちっともふわふわとしていなかったのが、中身は残念でしたが。

次、高松さんに、今度はきっと、観光の側面ということでお話しさせていただきます。

○高松氏 皆さんこんにちは。

私のほうからは、皆さんそれぞれ、大変な専門家なんです。私は、先ほどのご紹介の中で一番最後につけ加えていただきましたかったのが、実は東京都の観光部長。実は観光部長としては3代目なんですけれども、観光部長をやらせていただきました。それが、私にとっては、すごく大きなインパクトにもなりました。その前に、お話のように、港湾局の臨海開発部長をやらせていただきましたので、臨海部のまちづくり、それから臨海部の管理の仕事をやりましたので、臨海部がどんなに資源として素晴らしいものか。これから、どうつくっていったら、素晴らしいものになるのかということを生懸命考えながら来ました。で、最後に、観光ということをやらせていただいたので、その辺が、今の水辺の仕事につながっているのかなというふうに思っております。

私は昭和47年に建設局に入りましたけれども、実は、東京都に入ったのは、都心のまちが、私が小さいときにどんどん寂れていくのを見て、とっても残念に思って、都心のまちの活性化を何とかしたいなというふうな思いもあって、東京都に就職をしたという経緯もございます。それを、今、都庁を卒業してもう12年ぐらいになりますけれども、新しく一般社団法人のまちふねみらい塾という、そういう、塾ですから皆さんと一緒に考えて、施策を展開したいと思ひまして、こんなものを4年前から、先ほどの話がありましたように、阿部さんと一緒にやっております。

そのキーは、結論から言いますと、東京都が、私、観光部長で世界を回ってきたときに、何が不足して、で、どこを、力を入れると、東京はすばらしくなるぞと実感したのかというと、それはまさしく水辺です。いろいろなまちを行かせていただきましたけれども、いずれも、二つ、水辺からのまちの景観、まちの楽しみ方というのは、すごくできているのがすてきなまちなんです。もう一つ、水辺にアプローチするやり方も、とても楽しくて、

さまざまな手段があって、いろんな形で水辺がまちの中に生きている。そういうまちが、実は、とっても魅力的なまちだったということがよくわかって、先ほどからお話がありましたように、歴史を振り返れば、江戸から——その前からと言っているんですが、このまちは、実は、水とともにあり、水辺を生かし、水辺に恩恵を与えられて、そして、世界のまちになったんですね。残念ながら、歴史的な経過で、この間、陸上交通がずっと盛んになったことが、日本の経済成長を生み出しましたので、それは否定しませんけれども、でも、早く切りかえて、水辺もすごいよということにはわかったまちが実はすごい活性化して、すてきなまちになっているぞというのがわかったものですから、私はこの仕事をやりたいというふうに思いました。それが自己紹介でございます、導入の。

この話を、きょうの話をする中で、実は二つの視点を持つというふうに思っております。一つは、私たちを取り巻く環境の視点です。どうしてもこれ、避けられないから、きょう、一言だけ言いたいなと思って、私、ここに書いてきました。つまり、地球環境がこれだけ厳しくなってきた、そして、都市の我々の周りも、実は非常に厳しい環境を受けざるを得なくて、それを受けて我々が生活しなきゃいけないということですね。もう身近には、例えばゲリラ豪雨がしょっちゅうあったり、今まで言われていないようなスーパー台風というよりも、大きな台風が直接日本を襲うようなこと。そういうことが、もう我々の目の前にあって、そして、それをどうやって乗り越えていかなきゃいけないか。都市に、これから人口が、世界の人口が60%集まるといような時代。もしかすると、もっとかもしれない。そういう時代に都市が環境をどうやって保全していくかということも含めて、我々がこれにどう対応するかということを考えなきゃいけないんじゃないのというふうに思って、このことを頭に、ぜひ、一言入れたいと思って、このことを、今、おしゃべりします。

もう一つ。これもよく言われること。こういう都市を支えている我々人間の数がどんどん減っていつちゃっている。まあ、たまたまね、東京の都心数区というのは人口増加の一途ですね、今。だけど、だけど、ずっと続くわけがない。やがて、今の東京では、平成37年なんて言っていますけれども、もっと早くかもしれない。人口減少社会が訪れて、それは何かというと、一つは、私、建設局で財政を担当しております経理課長というのをやってきましたので、財政問題って、すごく気になるんですよ。都市経営の中で財政問題を外しては考えられない。とすれば、人口減少社会の中で、どういう財源を求めて、この私たちのまちをつくっていったらいいのかということ、しっかり考えないといけないんじゃないかな。

で、人口は減少しますよ。それから、財政需要はどんどん上がってきますよ。それは少子高齢化がもたらすもの。でも、我々が今つくったこのまちを、どうやって次の人たちに渡していこうかとなると、それを維持管理していく財政というのは、めちゃくちゃ大変なことになるんじゃないか。これを、やっぱり考えざるを得ない。これ、横向いて、知らん顔するわけにいかないぞと思っています。これをベースにしながら、じゃあ、そういう中で、我々が何をしたらいいかということを考える。で、私は幸いなことに観光部長ってやらせていただいて、観光がもたらすこの都市を救うやり方というのはあるでしょうと思っています。

観光ってね、何かこう、ふわふわしたものだとかちゃらちゃらしたものだと思ったら大

間違いで、実は都市の中でしっかりとした産業として位置づけることがとても大切なことだというふうに思っています。それはなぜかというと、環境の負荷、環境負荷を低減させるために我々はこのまちをどうしたらいいかと考えると、そうすると、それは豊かな水と緑。美しい景観。それから、人間にもたらす喜びみたいなものを、しっかりと都市で支えることによって、環境を少しでも維持できないか。

それから、環境のことを考えると、少しでも小さく自分たちが、これは後で言いますが、小さいコミュニティをつかった上で、それを大事していくことが大切だというふうに思います。

それから、もう一つは、この都市がいきいきと暮らせるためには、それを支えるビジネス環境が絶対必要ですよ。それは、実は観光という新しい産業、これは、実は地域に密着した高度の技術力を持つものが、実は、観光資源になる。それから、情報や金融や出版やテレビ情報やさまざまな芸能・芸術、音楽、そうした文化活動そのものが、実は観光的要素になる。これは、これは私たちが、そこに住む私たちが実に楽しむことと一致するんですよ。だから、これ、後で、総括のところでも申し上げますけれども、そうした私たちの中で、観光というのが産業としてきちっと位置づけられると、実は、私たちの中で、いきいきした市民生活、これが生まれて、これが都市の魅力をつくる。これが、実は、世界から見るとすばらしいねと言われる魅力になって、これが産業として位置づけられる。実は、観光産業の経済的効果も、いろいろ言われていますけれども、いろんなデータがあるんですけども、ちょっと古いんですが、2016年の産業効果というのは、消費で言うと26点。これ、どれぐらいの率になるかということ、実は、製造業の中の鉄鋼関係の仕事が生み出すGDPに変わらないぐらいの大きさの経済効果を生んでいる。なおかつ、その中で、訪日外国人の消費だけに焦点を当てても3.6兆円と。これは爆買だけじゃなくて、実はこれ、大きな裾野を持った、大変大きな産業なんだよということを勉強させていただいております。

それで、じゃあ、新しい地域産業としての観光産業はどうやってつくっていったらいいのかねということ、ちょっとだけ触れさせていただきます。で、この後、実は、千代田区さんのほうへこう回ってきますので、千代田区はじゃあどうしたらいいのかねという話に、すぐなるんです。

観光産業のもたらすものって、実は経済効果と、もう一つは、自己評価の向上と、これ、ミラー効果と。何だと。こんなところ、外国人がすごい、すごいと言っているけれど、本当にそうなの、と。よくよく見たら、何だ僕たちはこんなすごいことをやっていたんだねと。こんなすてきなまちを実はつくっていたんだねということ、彼らを通して感じる。それはミラー効果といいますけれども、ミラー効果があるということなんです。観光振興とは、実は、だから、だから、何のことはない。自分たちを磨くこと。自分たちのいいところを評価して、それを磨いていくこと。それだからこそ、その武器は、実は、生活者、人です。

このすてきなまちを先輩たちが、先ほどいろいろ、歴史の話があったけれども、先輩たちが私たちにずっと残してくれたこのまちのすてきを、我々がそれをどう受けとめて、その次にどう伝えていくかということ、真剣になって考えることが、実は、観光振興そのもの、産業を興すことだというふうに考えています。

で、この青い、ここに囲みましたけれども、外国人来訪者にとって、東京の水は未知の魅力だと書きました。私ね、実は、2013年に東京が、急にですけれども、全国都市緑化フェアというのを受けたんですね。それは別の都市でやるはずだったのが、そこが受けられないということで東京が急遽受けたんですけれども、そのときに、私、東京都公園協会のところにおりまして、浜離宮庭園で外国人を案内していたんですよ。で、入り口のところで外国人に対してちょっと、まあ、大してしゃべれないんだけど。ちょっとおしゃべりするとね、彼らが聞くのは、ここは浜離宮庭園ですよと。ここに、で、ボートに乗れるでしょと、10人のうち9人は必ず聞くんです。あそこへ来るのに、僕らは、あの浜離宮庭園を、400年の浜離宮庭園をすてきだねと言って賛美をしたいわけだけれども、それもそうだけれど、実は、彼らの興味のもう一つ大きなところは、あそこから船に乗れる。これはガイドブックに書いてあるそうですが、それにすごい興味を持っているんです。でも、改めて、外国人はそうだろうなと思ったけれど、改めて実感しました。外国人が日本に来て、ちゃんと、きちっと案内をして、ボート、素晴らしい水上交通を体験できたら、これは、彼らにとって大きな喜び、もしかすると、また行きたいとリピーターになるかもしれないということを実感いたしました。で、日本橋の水、都心の高速道路の撤去は、さっき阿部さんの話がありましたのでもう言いませんけれども、観光資源になりますよということです。

で、ちょっとだけ、世界の話をしましたので、ここだけ触れさせてください。

今、世界の人たちが一番住みたいまちって、実はポートランドなんですね、アメリカのね、オークランドシティ、ポートランド。なぜかといったら、人に優しい、環境優先のまちだということです。これ、ナンバーワンだそうです。実は、これをやるために、まちづくりがしっかりしていて、きちっとこのまちは、ここの部分は、昔のものを残しましょう、そのかわり周辺はこういう開発をしてもいいですよと。その周りは農地を残しましょうと、そんなことをきっちりやっているんです。で、このポートランドというまちがすてきなものが、そういうことをしっかり、みんなで共有をして守って行って、その中で、大いに楽しむことができるような仕掛けを幾つかつくっている。例えば芸術的なイベントだとか、それから、みんなで楽しむようなスポーツイベントだとか、そういうものを行っています。

もう一つ、さっきアムステルダムの話がありました。僕は、アムステルダムって、すごく好きなまちなんですけれども、それはなぜかという、水辺を中心にまちを考えているところです。あそこね、臨海部に行くのに極端に橋がないんですよ。橋がないのはなぜか。それは、船が通りにくくなっちゃうから、運河を。だから、橋はつくらない。そのかわり、実は、地下道は通しました。地下道は通しました。だけど、橋は通しません。一つだけすごく残念だったのは、築地に築地大橋という橋をつくりましたね、東京都が。その陸側に勝鬨橋があるんです。勝鬨橋の向こう側、海側に築地大橋をつくった。築地大橋をつくったために、勝鬨橋はもう、あけられません。あけても、意味がないから。だって、あそこ、大きい船は通らないんだもん、築地大橋は。この違い、何ですかね。あそこ、本当は、計画は、地下道だったんです。地下で通すつもりだったんです。ところが、残念ながら、それは、実は経費の問題です。実を言うとね。当時、私もちょっとだけ絡みましたが、わかっていますけど、金目の問題なんです。

で、この金目は、実は目の前の金目なんですよ。もっと長いスパンで物を考えたら、そ

の観光的価値を生かすということのほうが、どんなに東京にとって有効な財政政策になるかというのを考えてくれなかったのかなと思って、残念です。まあ、そんなことを言ってもあれで、そういうふうなアムステルダムのある方。それから、ロンドンは、皆さんもよくご存じですけど、オリンピック以来、今度のオリンピック以来、新しい都市の流行をどんどん復活させています。

じゃあ、そういう世界のまちとあわせて、もうあんまり時間がないので、ぱっと行きますけれども、この私たちのまち、この千代田の魅力と可能性、ちょっとだけ書いてみました。で、もう、先ほどからお話ししているように、このまちをつくった、皇居、そして、その周辺のお濠、内濠、外濠、そしてつながる日本橋川、神田川というのが、このまちの、実は東京の、日本の産業を支えた、物流を支えた、文化を支えた基本的な流通路です。それが、一部なくなっているのは残念でもありますけれども、でも、基本的にこの基幹的水路がこのまちに残っている。しかも、その周辺にちゃんとそれを生かしたまちがある。延々と昔から、江戸時代からずっとつながって、まちができていますよ。それぞれ特徴あるから、それぞれの特徴はそれぞれ生かしていったらいいと思うけれど、そういうまちが実は水路を大切に、私たちが誇って美しく活用することで、このまちがもっと生かせるんじゃないかということ、きょうはもうここまでしかしゃべれませんので、ここまでですけども、思っています。

で、一つ、これ、お土産です。これも、お手元に書いてありますから読んでいただきたいんですけども、これから私たちのまちをどうつくるかということ、先ほどちょっと言いましたが、まちの主演は人間、そこに住む人たちであって、その人たちが誇りを持って住み続け、そして、人と人とのつながりをはっきり感じて、そして次世代にそれをつないでいく、そういうまちにしましょうねと言ったときに、初めてこのまちが、実はすばらしいまちとしていきいきしてくると、私は思っています。

最後に一つだけ、水辺の話ですから、私たち、まちふね未来塾の阿部さんと2人で提案をしております。とても重要なことなんですけど、これから羽田はもっともっと外国人に開かれた空港になるでしょう。そうしたときに、ここから船に乗って、このちょうど今、実は船着き場はここにあるんですけども、この東側に船着き場を新しくつくって、ここから大きな船、500人以上乗れる大きな船だと思っていますけれども、どーっとういうふうに、これ、第一航路ですが、航路といいます。そのときに、実は上空にこういう飛行機が、どんどん離着陸が、自分たちの頭の上を飛んできます。そしてこう曲がった途端に、こういうガントリークレーンという、こういうキリンと言われているクレーンが、両方の、これ、大井ふ頭、こっちが青海のふ頭。ふ頭を一一で、生きている。そして、これをずっと上がってくると、まさに我々が目指す東京の街が向こうにだーっと見えている。これを一挙にずっと上がってくると、何と築地まで25分で、25分で着きます。で、これはどの交通機関よりも魅力的で素早い。

これを我々は提案をしております。どうか皆さんも一緒になって応援してくれたらいいなというふうに思っています。ありがとうございました。（拍手）

○阿部氏 どうも高松さん、ありがとうございました。

引き続き岡田さんに少し――今、岡田さんがきつとこの千代田区の中で一番水辺を活用して、活動していらっしゃる方だと思いますので、その辺を中心によろしく願います。

○岡田氏 皆さん、改めましてこんにちは。千代田区のリバーサイドプロジェクトの事務局長を仰せつかっております岡田と申します。

私は年中こうやって船の上でしゃべったりとかすることが多いんで、観光協会の人ですかとか旅行社の人ですかとか言われることが多いんですけども、私は岩本町の在住の一会社経営者であり一区民でありますので、そういった区民の立場から、こういった水辺の利用をしながら、地域活性事業、そしてまた防災事業のほうを行っているということで、皆さん方にその活動をご紹介をしていきたいと思っております。

まず私たちの活動は、一番最初、岩本町・東神田の地域で始まりました。2012年に東京スカイツリーがちょうど開業しまして、その中で、何か地域活性のそういったものがないかということで、当時岩本町のファミリーバザールの実行委員会で、また岩本町・東神田の連合町会の町会長でありました都築会長から、何かおまえ考えろということで、当時、私が日本橋のほうで、ちょうど日本橋の船着場ができる、そうした利用者協議会の中で、いろいろ勉強させていただいていましたんで、そういうのを使いながら、水辺を使って、そしてまた和泉橋の防災船着場の活用をしながら、地域活性をできないかということで、都築会長のほうに命を受けまして、こういった活動を始めました。

当時、神田の各連合町会さんのほうにご挨拶に行きまして、当時の旭町の高柳会長、それから鍛冶町二丁目の保志場会長、それから鍛冶町一丁目の橋会長、そしてまた須田町北部の堀田会長、それから観光まちづくりの実行委員会の米倉会長には、大変温かくご支援をさせていただきまして、2012年に神田リバーサイドプロジェクトとして活動を始めたわけです。

で、和泉橋の防災船着場なんですけども、こちらが先ほどから出ていますように、1995年の阪神淡路大震災の陸上交通によって、物資の輸送は困難、そしてまた交通が遮断されたことからつくられたのは、この防災船着場になるわけです。第1号の船着場が常磐橋の前にある常磐橋の防災船着場ということでして、千代田区には、後でまた触れますけども、3カ所の船着場がございます。

現在、こういった形で、和泉橋の防災船着場は、春のさくらクルーズですとか、それから岩本町ファミリーバザールのスカイツリークルーズで、こういったにぎわいが始まっております。

で、この取り組みはですけれども、千代田区の行政の各機関が、例えば道路公園課さんが実際に防災船着場の管理をしておりますので道路公園課さん、それから千代田区の観光協会さんといった行政の各機関さんと、そして神田・岩本町、万世橋の各町会ということで、密接な連携の上で、あくまでも地域活性の事業と防災拠点としての和泉橋の防災船着場の重要性をPRしていくということで始めました。やはりこういった事業は、船がなければ困るということで、東京の屋形船の連合会さん、そしてまた中央隅田漁協の全面的な協力を受けて、船の提供を受けて、今、活動しております。

第1番目の活動が、2012年に5月28日、ちょうど東日本大震災で避難をしてきておりました旧グランドプリンスホテル赤坂の避難者の方たちをクルーズにご招待をしたというのが、第1回目の活動の始まりだったわけです。

で、2014年には千代田区議会のほうの視察がございまして、当時、高山肇さんが多分商工観光の施策の特別委員会の委員長だったと思っておりますが、こういった形で、日本橋

川・隅田川のクルーズ、そしてまた、豊年萬福の見学を含めまして、皆さんにご見学をいただきました。

そういった流れで、2015年の3月、初めて千代田区議会により「水辺を魅力ある都市空間に再生する条例」というのを区議会の皆さん方によって制定をしていただきました。

また、それを受けまして、千代田区議会様のほうにお願いをして、有志の方たちで議員の連絡会というのを立ち上げていただきました。2016年に一応発足のほうをさせていただきまして、防災の神田の防災のほうに非常にお詳しい小林やすお議員のほうに、議員の連絡会のほうの会長のほうをお願いしているわけです。

ということで、そういった形で地域と議員の方たち、そして連絡会を含めまして、神田から千代田区全体に活動を広げようということで議員連絡会を立ち上げたのと同時に、名称を「ちよだりバーサイドプロジェクト」という名前に変更をいたしました。

ということで、都築会長が残念ながら亡くなりましたので、現会長は石渡伸幸会長、きょう見えていますけれども、寝ていませんか、起きていますか、石渡さん。（発言する者あり）石渡会長がきょう見えていますけど、ちょっと目覚めたんでね、石渡会長、私の説明を間違いないかどうかとって後ろで監視しておりますけども、石渡会長になって、今、活動を続けております。

2017年はこういった七つほどのクルーズのほうを展開しております。ことしですけれども、ことしは非常に春から天気がよくて、まず、これが3月27、28日。これ、初めてJRの東日本のびゅうトラベルサービスさんと観光協会、それから日比谷文化図書館の連携ということで、初めてこういった商業の旅行社さんと組んだ企画をしました。「江戸城の外堀の石垣と桜を見る」というクルーズでして、マーチエキュートの「フクモリ」でご飯を食べて、そして神田のまち歩きをするという、そういったクルーズです。

また、来年からは、ぼけかる倶楽部という、そういった旅行社さんとも連携しながら、観光協会さんと一緒にこういったクルーズ事業をしていこうと思っております。

で、毎年やっておりますさくらクルーズですね。これも大人気で、毎年みんな多くの方たちに来ていただいておりますが、ことしはちょっとコースを変えまして、和泉橋から千代田区の船着場を経て、日本橋を経て、二天門前の船着場まで、墨田区まで足を延ばすというクルーズをことしは開催しました。それとあわせて、このクルーズは、ことし1週間やったわけですけれども、参加者が532名ほどの方に乘っていただいております。

千代田区の観光まちづくりの実行委員会のさくらまつりと連携した形で行っております、毎年多くの方に来ていただいております。これは、このクルーズで一番特筆するのは、中央区の観光協会さんと連携をしております、中央区とそれから千代田区の観光協会の二つの観光協会がコラボする形で、和泉橋から乗って行って、中央区の日本橋さんであり、その両方のまちを見ていくということで、今こういった両区を挟んだ、両区のコラボレーションのこういった観光事業を進めていっております。

また、国際交流ということで、ここに社会福祉協議会の田邊会長が立っておりますけれども、社会福祉協議会の田邊会長の肝いりで、こういった中国の大使館、それから千代田区の中国人の留学生たちを招いたこういった国際交流のクルーズも行っています。そしてまたこれが、岩本町・東神田の「初夏のスカイツリークルーズ」ということで、大体4日間で1,000名以上の方が乗って楽しんでいただいております。

はい。8回目になりますこれは地域のほうのイベントとして、秋葉原の周辺地域の生活改善の連絡会ということで、これは挨拶しているのは、和泉橋の石綿所長ということで、もう8回目になりますけれども行っております。

また、法人会と連携した「千代田租税リバークルーズ」ということで、これが一般向けで、オリンピックの会場を回っています。

それから、ちょうど土曜日に行いましたけれども、「小学生リバークルーズ」。これも8回目となりましたけれども、小学生たちにこういった水辺を見ていただくということで、こういったクルーズを行っております。

また、ことしてもう3回目、4回目になるんですけど、和泉小学校からの要請を受けまして、和泉小学校の6年生を大体乗せて、地域の水辺の歴史、それから環境を見に行くクルーズも毎年行っています。

ということで、私たちがやっています中で、三つの観光資源をもとにして、千代田区の水辺を活性化していこうというふうに考えています。

まず一つが、江戸城外濠の石垣ですね。さっきから出てきていますけれども、江戸城の外濠、ちょうど雉子橋のところから常盤橋まで江戸城の外濠の遺構が残っておりまして、それに対する興味というのは、一般の方、非常に多いですね、プラタモリなんかでもやっておりますので、非常に高い関心があります。ことし、これちょうど9月の17日に行ったわけですが、区報だけで募集したらば、もう、1週間で全員、80名の応募者が集まってしまった。ということで、こういった江戸城の史跡を見て歩くクルーズも行っておりまして、やはり日比谷図書文化館と合同で行っているクルーズとなります。

そして、先ほどから説明ありますように、こういった江戸城の外濠、それから江戸城の外濠には石垣があって、石垣にはこういった刻印があるので、こういった刻印を説明しながら回ると、非常に一般の方たちは喜ぶわけですね。はい。

ということで、こういったこれがちょうど雉子橋のところの石垣ですが、こういった丸に十とか卍の刻印がある。こういった刻印を見せながら、外濠の遺構、そして常盤橋御門などを解説するというので、非常に人気、また興味を深めることになると思います。

そして、外濠が行き着くところに、また後で保科部長のほうもお話しすると思いますが、常盤橋公園というのがございます。この常盤橋公園といいますのは、江戸城の常盤橋御門、寛永6年にできました常盤橋御門が江戸城内の外で唯一残されているところとして、昭和3年に史跡に指定をされている御門になります。そして、千代田区が誇る歴史遺産としての公園なわけとして、明治10年のこういった石の常盤橋が残っている。で、この常盤橋を中心にして、私たちのリバーサイドプロジェクトと大手町の日本橋の地域の方たちが一緒になって、この常盤橋の地域を活性化していこうというお話し合いを続けています。まあ、活動の延長としてですね。

ということで、常盤橋は、大手町、日本橋、神田をつなぐまちの結節点ということで、この「常盤橋フォーラム」の構成団体には、NPO法人の大丸有のエリアマネジメント。それから私どものちよだりリバーサイド。そして鍛冶町二丁目の町会の方を初めとする神田の町会の方。それから日本橋地域では、日本橋地域ルネッサンスの100年計画委員会といったことで、二つの中央区と千代田区のまちづくりの団体が集まって、こういった活動

を進めています。座長になっておりますのは、当時日大の理工学部の教授でした伊東孝先生。きょうちょっと見えていただいておりますけども、伊東先生が中心となって行っております。

一番最初、2005年にアダプト活動ということで、公園の花植え活動をしました。非常にこれも花植え活動をするのは大変だったんですが、今の地域振興部長であります細越部長が当時和泉橋の出張所長でして、大変ご苦勞をかけて、こういったアダプト活動をすることができました。

ということで、観光協会さんからさくらまつりとして補助金をいただいたりしていたわけですが、東日本大震災によって公園は閉鎖されてしまって、イベントも中止になっております。そして、現在、常磐橋は解体修理中ということです。また、この解体修理に当たっては、非常に区議会の先生方にもご協力をいただきまして、何とかこの常磐橋を保存するような形で、現在も修復活動が続いているということです。

そして、また我々のほうでは、こういった日比谷図書文化館と連携した講座ですとか、それからこういった日本橋川の清掃活動も続けております。日本橋川の清掃活動は、2008年から続けておりまして、中央区それから千代田区の各団体がそろって清掃活動をする。そして、鍛冶町二丁目の保志場会長を初めとする町会の方たち、現平野会長も出ていただいておりますけれども、それから千代田小学校の生徒さんたちも来ていただいて活動をしている。といったことから、2015年には東京都から河川ボランティアの表彰をいただきました。

で、2番目の観光資源ですけども、実は私たちの身近には、震災復興橋梁という、関東大震災の後につくられた橋が数多く残っています。隅田川の橋10橋を含めて大体425橋が架設されたわけですけど、現在では1割程度しか残っていない。ところが、神田川、日本橋川には、これだけ多くの震災復興橋梁が残っているわけです。これが日本橋川ですね。そしてこれが神田川。

ということで、ちょっと進みますけど、神田川は15橋中10橋、日本橋川は16橋中13橋。この中には明治時代の橋も含まれていますから、かなり多くの震災復興の橋が残されているわけです。皆さん方の地元で目につくところといいますと、まず一ツ橋。これは、こういった形の復興橋では、もう今、都内では、現存するのは唯一この1橋だけで、重要文化財にも匹敵するほどの重要な橋になります。それからお茶の水、それから東神田の美倉橋ですね。こういった形で、数多くの震災復興橋梁が残っておりまして、95年前のこういった橋梁が実際に都市インフラとして現役で使われているというのは、世界でも非常に珍しい。また、それは日本の誇るべき技術だということで、こういった復興橋を保存しながら、そしてまた、この復興橋を観光資源として生かす。そしてまた都市インフラとして機能する防災都市としての東京千代田のPRに役立てていきたいということが2本目の柱になります。

これが聖橋から見た神田の景観なんですけれども、全て震災復興の事業によってつくられた、この水辺の景観になります。はい。

そんなことで、伊東先生に講師を務めていただいて私も説明するんですが、「日本橋川・神田川・隅田川の震災復興橋梁を巡るクルーズ」というのをもう4回ほど運行させていただいてまして、だんだんだんだん関心も多くなってきております。

それに加えて、今、五輪会場が旬でありますので、プラス「五輪会場と湾岸エリアを巡るツアー」というのも行っておりました、震災復興から五輪会場ということで、新しい東京をね、100年前の東京から現代の東京へということで、今の東京の現在を俯瞰するような形で、ツアーそしてPRを行っています。

ただ、観光だけでは私たちの活動はありませんので、防災訓練のほうも行っております。2016年には、連携しておりますNPO法人と一緒に、河川舟運を利用した水上タクシーの帰宅困難の防災訓練。そしてまた、河川舟運を利用した水上タクシーということで、防災訓練を行いました。

そしてまた、現在は、万世橋警察さんを中心として、東京都の防災対策課と、今、緊急災害時の警察の署員の緊急輸送の体制というものをつくれないかということでご提案いただいております、和泉橋の防災船着場をそういった警察の署員の方たちが集結して、そして防災活動に当たる拠点にしようということで、現在話を進めております。

まあ、といったということで、千代田区には、和泉橋、千代田区、新三崎橋の防災船着場。そして日本橋なんですけれども、日本橋の船着場は、これは防災船着場としての機能もありますが、一般の船が使用できる船着場になっております。1回8,000円ほどの料金で使う船着場なんです、その船着場、そして朝潮運河の船着場、それから浅草の二天門前といった、こういった船着場が私たちの身の回りにはあるわけです。

そして、日本橋の船着場ですけれども、日本橋の船着場は、かなり三井さんを含めて、そうした利用者協議会のほうが進めている。そして中央区さんが管理、そして運営しております、昨年は7万100人、そしてことしが9月までで3万3,000人ほどの利用者を集めております。

ということで、これはそういった商業ベースの船着場がうまく作用をしている船着場ではないかと思えます。これがちょっとデータですね。

ただし、一つ問題がありまして、そういった意味では、業者のほう幅をきかせてしまって、地域の人が使えないというような欠点があります。ですから、私どものプロジェクトでは、千代田区の防災船着場、日本橋の船着場、浅草二天門の船着場などの隅田川に設置されている船着場と千代田区の船着場を連携させることによって、千代田区の舟運事業を発展させる。そして、あわせて地域の防災事業を進めるということを中心に活動を進めているわけですし、運用に当たっては、意外とおざなりにされている安全を第一にして、こういった活動を進めておりました、8年間にわたって活動を進めておりますが、今まで事故等は一切起こったことがございません。

といったことで、今までこういった「夜景を楽しむクルーズ」ですとか「音楽を聞くクルーズ」、それから「晩秋の紅葉を見るクルーズ」といったような、こういった活動を進めながら、先ほど申しましたように、地域活性事業としての千代田の舟運事業、そしてまた防災拠点としての防災船着場を活用しながら、我々の活動を進めていきたいと思っております。2020年に向けて、ますます日本橋川・神田川への観光、それから防災の関心が高まってまいります。そういったことで、和泉橋、新三崎橋、千代田区の防災船着場、日本橋・大手町・神田の各地域を連携させて、オール千代田区で河川環境の保全と防災への関心を高めて、そして観光をはじめとする魅力的な水辺空間を、区議会、それから行政の方たち、それから町会、各町会の地域の方たちと皆さんで協力し合いながら、こういっ

た事業を進めていきたいと思っております。

ということで、雑駁ではございましたけれども、ざっと足早に活動のご紹介をさせていただきました。ご清聴、まことにありがとうございました。（拍手）

○阿部氏 どうもありがとうございました。

どんどん時間が押しております、最後、保科さんにまたお願い、行政の立場から、今千代田区の水辺はどういうふうになっているかということについてお話ししていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○保科環境まちづくり部長 ただいまご紹介いただきました保科でございます。千代田区の環境まちづくり部長をさせていただきます。

まず、このたびは平成30年度の区民集会にお招きいただきまして、まことにありがとうございます。今年度の区民集会のテーマが「水辺の利活用について」ということでございましたので、私からは、「濠や川に顔を向けたまちづくり」と題しまして、行政の立場からこれまでの取り組みをご紹介させていただければと存じます。

本日お伝えしたいことは、次の4点でございます。1点目は、「内濠の水質浄化の取り組み」。2点目といたしまして、「外濠の水質浄化の取り組み」。3点目は、「日本橋川に顔を向けたまちづくり」と題しまして、竜閑さくら橋の整備、大手町川端緑道の整備、史跡常盤橋門跡復旧整備の3事例を。最後、4点目といたしましては、「神田川に顔を向けたまちづくり」といたしまして、外神田一丁目地区のまちづくりについてでございます。

それでは、早速1点目の「内濠の水質改善の取り組み」についてでございます。

ご案内のとおり、江戸城の内濠は、全体を環境省が管理をしております。現在のところ、半蔵濠をちょうど一番、こう、海拔の高いところですね、一番低いところが日比谷濠というところでございます。全体で12濠が現存しております。総面積が37万平方メートルということで、東京ドームに換算すると約8個分。平均水深が1.25メートル。総湛水量が約45万立米となっております。

これまで、濠の水の水質悪化が続いております、悪臭の発生のみならず、アオコの大量発生が皇居の美観への支障となっておりました。こうした状況を踏まえまして、昭和50年には、当時の環境省が水質改善目標を設定し、昭和62年には、一時的に東京駅の地下鉄工事で発生いたしました地下水を導水するなどの取り組みをしておりましたが、平成7年に浄化装置の運用が開始をしております。また、一時的に濠の水を全部抜く、かいぼりが実施された時期もございましたけれども、依然としてアオコの大量発生が続きまして、平成21年に策定されました皇居外苑濠管理方針及び皇居外苑濠水質改善計画に基づきまして、平成25年から新しい浄化設備が稼働しております。この写真のような浄化設備でございまして、設置場所が日比谷濠の内側のところになります。1日の処理能力が2万立米となっております。

また、内濠の水質浄化に関しましては、民間の開発事業と連動いたしました内濠の水質改善の取り組みがございます。これは地域の民間開発事業と連携いたしまして、内濠の水質改善に寄与する大型貯留槽・高速浄化設備を導入したものでございます。設置場所は、大手町1-1、大手町タワー・JXビルの地下でございます。

スライドがやや見づらんですが、この左上のほうでございますけれども、ちょうど内

濠通りを挟んで、大手濠から水を引き込みまして、浄化してまた元に戻すという、非常に大がかりな設備でございます。処理能力が年間50万立米ということでございますので、約1年で内濠の水がそっくり入れかわるといような計算となります。

あわせまして、濠の水質低下によりまして水がよどむのを防止するため、濠に水を放流するための巨大な貯留槽、これが約3,000立米と聞いてございますが、も設置をされてございます。

私も、日々自席から清水濠を見てございますけれども、濠の水は確実にきれいになったと実感をしてございます。ただ、水の透明度が上がったためか、水草が大量発生するというのもございました。まだまだ課題はあるということかと思えます。

なお、蛇足ではございますけれども、現在かがやきプラザの前で、環境省さんがヘイケボタルの復活をしたいという取り組みを進めてございます。なかなかうまくいっていないようでございますけれども、区としても協力してまいりたいというふうに考えてございます。

続きまして、「外濠の水質改善の取り組み」でございます。

外濠は、全体を東京都が管理してございます。区は水面と法面の清掃を分担実施してございます。現存するのは、牛込濠、新見附濠、市ヶ谷濠及び弁慶濠の4濠でございます。それ以外は、現在は埋め立てられまして、JRの線路、あと道路、あと駅ビル、住宅、あとは公園、グラウンドに利用されてございます。ご案内のとおり、東京の下水道は雨水と汚水の合流式でございます。大雨のたびに下水が外濠に流入いたしまして、いわゆる越流水が大きな課題となっております。これが水質悪化の最大の課題と、原因と言われております。また、ほぼ閉鎖された水環境でございまして、水循環が乏しいため、長年にわたり大量のヘドロが堆積してございまして、生物化学的酸素要求量も高くなりがちで、夏場にはここも異臭とともにアオコが大量発生してございました。

このスライドは、現在、東京都において2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて実施しているしゅんせつ工事のお知らせです。スライドが小さくて大変読みづらくて申しわけございませんが、市ヶ谷濠から順に新見附濠、牛込濠の順に、送泥管ですね、ちょうど大きな掃除機のようなもので、しゅんせつ工事を実施中でございます。竣工は平成31年の10月というふうに聞いてございます。なお、残る弁慶濠につきましても、しゅんせつ工事を実施予定でございます。

なお、先ほど申し上げた下水への濠への流入、いわゆる越流水対策といたしまして、現在、東京都下水道局におきまして、大雨時に一時的に下水をためる貯留管を外堀通りの地下に建設中でございます。貯留管の完成によりまして、下水の濠への流入がなくなれば、外濠の大幅な水質改善に寄与するものと期待をしているところでございます。

また、3点目が、「日本橋川に顔を向けたまちづくり」でございます。

ご案内のとおり、日本橋川は、JR水道橋駅西口の千代田区と文京区の境目にある小石川橋で神田川から分流している、まあ神田川の分流でございます。中央区の永代橋付近で隅田川と合流して、ほぼ全域にわたって首都高速道路の高架下という状況でございます。

ここで、「日本橋川に顔を向けたまちづくり」といたしまして、竜閑さくら橋の整備と大手町川端緑道の整備をご案内させていただきます。

場所は、大手町と内神田を結ぶ、スライドで日本橋川をまたいで「新しい橋」とありま

すけれども、ここが歩行者専用橋、いわゆる人道橋である竜閑さくら橋でございます。また、日本橋川の欄干に沿って緑色で「遊歩道」と表記してございますのが、歩行者専用道路であります大手町川端緑道でございます。いずれも地域のまちづくりに合わせて整備をされたものでございます。

まず、竜閑さくら橋でございますが、本年3月に完成いたしました人道橋です。橋の名前は、この付近に竜閑川が流れ、竜閑橋があったことから、選定委員会の議を得て命名されました。橋の長さが約120メートル、橋の幅員は約7メートル、歩道は約6メートルでございます。将来的には、丸の内仲通りの延伸上に2本目となる人道橋が整備をされる予定となっております。

これが竜閑さくら橋でございます。上空に見えるのが、日本橋川にかかる首都高速道路の高架橋でございます。

これが竜閑さくら橋を内神田川から見たスライドでございます。橋のたもとには小公園が整備され、桜の木が植樹されてございます。なお、このスライドではわかりませんが、橋の両側にエレベーターが整備をされ、フルバリアフリー構造となっております。

もう一つが、大手町川端緑道の整備についてでございます。大手町の再開発地域の北を流れる日本橋川沿いにつくられた歩行者専用の区道でございます。都心の歩行者専用道路としては、最大級のものというふうに聞いてございます。開通日が平成26年4月22日でございます。幅員が12メートルございまして、総延長は約780メートルでございます。

このスライドが大手町川端緑道の案内図です。古地図と重ね合わせて見れるような工夫がされてございます。

これが日本橋川の上流側から見たスライドでございます。電線類も地中下され、四季折々の植栽がなされ、非常にすっきりした歩行者専用道となっております。この道路空間を活用いたしまして、地域のタウンマネジメント会社によりまして、さまざまなイベント等に利用されてございます。左側に日本橋川にかかる首都高速道路の高架橋の橋桁が見えているのがおわかりになると思います。

もう一つが、「日本橋川に顔を向けたまちづくり」といたしまして、国指定常盤橋門跡復旧整備事業をご紹介します。

千代田区には、江戸城関連の史跡が三つございます。一つ目が、本丸を中心とする江戸城址。これは特別史跡でございます。二つ目が、牛込見附から赤坂見附に帯状に結ぶ江戸城外濠跡。三つ目が、この常盤橋を含む常盤橋門跡でございます。

この常盤橋門は、江戸時代の五街道の起点が日本橋に移る以前から、江戸城より甲州街道へとつづるメインストリートの要衝でございました。江戸城の正面玄関、大手門へ向かう外濠の正門としてつくられた常盤橋門から日本橋川を渡る橋が、この常盤橋。常盤門は「皿」ですけれども、常盤橋は「石」という字を当てて、固有名詞で常盤橋と書きます。この常盤橋は、明治10年に旧木橋、木の橋をかけかえたものでございます。その後の経過は、スライドに示すとおりでございますけれども、平成23年の東日本大震災により損傷を受けまして、現在、解体修理を行っているところでございます。

このスライドは、東日本大震災により損傷を受ける前の常盤橋でございます。正面には日本銀行が、スライドの上方には、日本橋川の上にかかる首都高速道路の高架が見えています。

この常磐橋でございますが、約140年前に建設された石橋、石橋でございます。現在、この石組のこの熟練職人がおらず、他の石垣等からの石を転用して、再加工してつくったということがわかってございまして、その大きさもふぞろいという状況です。そのため、石を積んでは崩し、崩しては積むということをしてございまして、再三にわたり工期を延長してまいりました。やっとジャッキダウンを行い、現在石の自重のみで自立しているというところまで、何とかこぎつくことができたという状況でございます。

なお、日本橋の上空にかかる首都高速道路を地下化する計画がございます。新聞報道等を見ても、日本橋ばかりに目が行きがちでございますけれども、計画が実現すれば、この常磐橋のやや上流から首都高速道路が地下に潜るという計画でございます。したがって、結果的に常磐橋上空の首都高速道路の高架も撤去される見込みでございまして、この周辺の景観の大幅な向上が期待できるのではないかと考えておるところでございます。

最後に、千代田区内を流れるもう一つの水辺空間でございます「神田川に顔を向けたまちづくり」についてご紹介させていただきます。

ご案内のとおり、神田川は、三鷹市の井の頭池に端を発し、1市8区を流れる都内最大級の中小河川でございます。全区間が開渠となっているのが特徴です。

ここでは、外神田一丁目地区のまちづくりについてご紹介をさせていただきます。対象エリアは、このスライドの赤枠内でございます。神田川に面する昌平橋から万世橋までの兩岸の外神田一丁目地区となります。この外神田一丁目まちづくりにつきましては、平成22年3月に「外神田一丁目計画基本構想」が策定をされてございます。基本コンセプトは、スライドにもありますとおり、「神田須田町・淡路町界隈と秋葉原駅周辺地域を行き交う人々の架橋となるまちづくり」でございます。このまちづくりの目指すべき方向といたしまして、「神田川兩岸一体のまちづくり」を掲げ、具体的には、高架橋レンガアーチを臨む歩行者空間、水辺空間を意識した歩行者ネットワーク、街区内の広場の整備、周辺街区を結ぶ歩行者ネットワークの形成、神田川兩岸の連携の検討、神田川沿い景観形成ということの5項目を挙げてございます。

これが計画区域の拡大図でございます。神田川南側の旧万世橋駅を含みます中央線の高架及び保線車両区間、旧交通博物館跡地につきましては、平成25年に整備が完了し、現在マーチエキュートとして開業してございます。これが万世橋から見たマーチエキュートの神田川沿いのテラスとなっております。

これに対しまして、神田川北側の街区につきましては、引き続き検討がなされておりましたけれども、このたび万世橋出張所の改築を先行して整備することとなりました。このスライドが万世橋出張所の完成イメージでございます。現在は、万世橋の交差点の角に国道工事事務所がございまして、この完成イメージのように、将来的には国道工事事務所跡地を広場に、神田川沿いに遊歩道を整備したいと考えてございます。

私からの報告は以上です。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○阿部氏 どうもありがとうございました。

これで一通りパネラーの方々の説明を終わらせていただきます。時間がかれこれ30分押ししておりまして、まことに申しわけございません。

これからちょっと休憩に入ります。その間にセッティングを変えるということだそうでございますが、休憩時間10分としていたのを5分にちょっと短縮させていただきます。

4時で終わるのが4時を少し過ぎるかもしれませんが、なるべくこれからコンパクトに進めていきたいと思います。

じゃあ、これから5分間の休憩に入ります。どうもありがとうございました。

午後3時27分休憩

午後3時32分再開

○阿部氏 それじゃあ、第2部に入らせていただきます。

4人の先生方、それと私と5人が、全く、要は内容調整をせずにお話を申しあげましたので、いろいろ食い違っているところとか等々ございます。まあ、それもあわせて質問を会場のほうから受ける形、残った時間が少のうございますので、会場のほうから受けたいと思います。お立場とお名前だけおっしゃっていただいて、どなたに対する質問かということをおっしゃっていただいて、質問をしていただきたいと思います。

なるべくお一人1項目にさせていただいて、いっぱいあれすると、私の処理能力では難しいかと思いますが、お一人1項目ということで、また、ほかにないときは、また次にということにいたします。

それじゃあ、ご質問をどうぞ。挙手をお願いいたします。

はい。後ろの方。男性の方、どうぞ。

○質問者A 他区民でございます。非常にパネラーの方のお話、非常に現状としては参考になったんですが、幾つか――1点なんですね。じゃあ一つだけ、歴史資産という観点から意見と、ちょっと質問していきたいと思います。

パネラーの方たち皆さん、いわゆる橋のこととか、それから常磐橋が、高速道路が撤去になって景観的によくなるという話があったんですが、実は、ご存じのように、高速道路を撤去すると、石橋の常磐橋の先にあります震災復興橋の常磐橋、あれが建てかえられるというふうになっていますよね。それは架け替えるとじゃあどうなんだという、それは表面には出ていないんですが、恐らくホームページでも読んじゃうと、あれは普通の桁橋にかわっちゃうはずなんですね。ですから、皆さん、景観的によくなるというふうに思われているかもわからないけど、実は皆さんが言っている、パネラーの方が言っている重要な震災復興橋の一つが、しかも非常に重要なアーチ橋が撤去されてしまうわけですよ。

それで、さらに、これはあんまり皆さん話題にしなかったんですが、首都高速道路とそれから東京都、そして千代田区の担当部局では、神田川と日本橋川にかかる橋を震災復興橋を含めて、いわゆるアーチ橋とか橋脚があるのは、河積阻害率というのがあるからということで、あれを全部かけかえようという計画をしているんですね。それは担当部局で私はご存じだと思うんですが、そういったことについて、もう少し皆さん、ただ単に景観的によくなる云々でなくて、もうちょっと目配りして、いわゆる重要な震災復興橋がなくなってしまうので、もう少しその辺を目配りした形での話、ないしはそういった話も出してほしかったというのが、まあ、この歴史遺産についての、たとえばは意味があります。そして、すみません、それであわせてね……

○阿部氏 あの……

○質問者A これを歴史遺産ということで1項目でやっているんですが、このアンケートについても、遺跡の保存期間……

○阿部氏 すみません。すみませんが、今のはどなたに対するご質問という。

○質問者A 皆さんですね。

○阿部氏 あの……

○質問者A だって、例えば……

○阿部氏 はい。

○質問者A 阿部さんは、常磐橋について、それで日本橋へ撤去されるという話をしていましたけど、かけかえのことについては、何も言っていなかったと。目配りなかった……

○阿部氏 はい。じゃあ、ちょっと恐れ入ります。ほかの人にもチャンスを。

○質問者A 岡田さんに対しては、……テイソとしたことを言うわけです。ですから皆さんに関連した質問かなというふうに思って、先に質問させていただきました。よろしくお願いします。

○阿部氏 はい。わかりました。

じゃあ、まず保科さんから、ちょっと答えを。はい。

○保科環境まちづくり部長 はい。保科でございます。私のほうからお答えをさせていただきます。

今ご質問いただきました常磐橋ですね。先ほど私のほうでご紹介させていただいたのは、「石」を書く、人しか渡れない石橋の常磐橋。で、そのすぐ河梁に、車両も渡れる区道の上にかかった常盤橋がございます。で、今ご指摘ありましたとおり、この日本橋の上空にかかる首都高速道路が地下化されると、この常磐橋を一時撤去するという話があるのは、それは存じ上げております。それもこれもご指摘のとおり、今の川にかかる橋というのは、いわゆるアーチ橋につくってしまいますと、水の流量がそこで阻害されてしまいますので、さまざまな課題がある。そこは、例えば同じアーチ橋を復旧するにしても、下をもうちょっと掘るとかささまざまな技術的なもんがあるんじゃないのかなとは思っております。

ただ、今現在、私どものほうで具体的な相談があるわけではございません。ただ、そうしたような重要——課題認識を持っているということは事実です。で、常磐橋も、この車道の常盤橋、両方ともですね、区の景観重要物件でございます。ですので、その辺も含めた形で、今後東京都も含めて折衝していくことになろうかと思っております。今現在は、まだ具体の相談がございませんので、ちょっと今の段階では、正確なお答えはちょっとしかねるので、そこはちょっとご勘弁いただきたいと思っております。

○質問者A 要するに内部検討はしているんじゃないですか。内部検討はしていると……

○保科環境まちづくり部長 申しわけございません。私どもの中では、内部検討はまだしてございません。あくまでも首都高速道路の地下化に伴って、さまざまな検討が国を中心になされているという状況です。今現在どういう形の広報をするかということ自体も決まっていないというふうに聞いてございます。当然しかるべき時期になれば、区のほうにも相談がいただけるものというふうに考えてございます。

○阿部氏 そういう意味では、私どものほうでもその話は具体的には聞いておりませんので、特にコメントする用意はございませんでした。

ほかの方で、どなたかありますか。特に……

○岡田氏 いいですか。

○阿部氏 はい。

○岡田氏 今、ちょっと発言をした方が名前を名乗らなかったですけど、千代田区のまち

づくりの景観の重要景観に指定したときの景観審議委員の伊東先生。で、今、常磐橋の復興の整備の副座長で、今基本的な中心をやられている方で、自分で名前を名乗らなかったんで、ちょっと皆さん違和感があったかと思うんですけど。ちゃんと名乗ってください。

ということで、先ほど私どもがやっておりますように、大丸有さん、三菱地所さん、それから三井不動産さんのNPO法人の日本橋地域ルネッサンス100年委員会さんと一緒に、私どもも常盤橋フォーラムという、常盤橋地域のそういった資産を活性化させ、そしてまた保存していくという活動をやっておりまして、その中で、この間、協議会の中でそういった話が出まして、まあやはり復興橋が次々とそうやっていく中で、それをやはり皆さんで、先ほど私申し上げたように、都市防災のそういった記憶ということで、世界に誇る遺産として残していかなければいけないわけですから、そういったものもこういった集会を含めて、重要性を皆さん方に理解をしていただいて、そういった動きが出てきたらば、また保科部長を含めて、皆さんで地域で考えていく機会にしたらどうかと思いますけど。

○阿部氏 ありがとうございます。

いずれにしても、この問題は、具体的に上がってきたとすれば、かなり大きな問題ですので、今の伊東先生も含めて一緒に議論するという場ができることを期待させていただきます。ありがとうございます。

次に、次にご質問。はい、どうぞ。

○質問者B ありがとうございます。きょうのね、約2時間の……

○阿部氏 すみません。ちょっとお名前を皆さんに。

○質問者B ごめんなさい。千代田区民のヤマザキと申します。環境ボランティアでかなり活動しています。素人です。

きょうのこのセミナーで、私、素人ながらの将来の水辺のビジョンができ上がりました。とてもハッピーです。特に高速道路、あれがもう本当に長い間違和感を感じていましたんで、まあ長い期日はとるでしょうけれども、結果的に結論として地下へ潜るということですね。そう解釈してよろしいわけですよ。きょうの一応お話の中では。（発言する者あり）

○阿部氏 それは、今、私に対する質問でございますか。（発言する者あり）

○質問者B ああ、待って、皆さん、そういうふうに理解されたと思っていますよ。

○阿部氏 いやいや、恐らくここにいらっしゃる議員さんも、私は議員さんに問いかけたつもり。千代田区は何にも物を申しませんでしたねと。ですから、千代田区は地下化になりませんよ、ちょうど大手町のところから竹橋まではこのまま残るんでよろしいんですかというふうに問いかけたことですので、地下化になるのは日本橋のところだけということで、これは誤解のないように。

○質問者B それは地下に潜るわけですよ。

○阿部氏 いや、それも、具体的にどうなるかというのは、これはその筋で検討していますが、かなり難しいと。逆に。

○質問者B ……たらということですか。はい。（発言する者あり）

○阿部氏 そうですね。2.8キロ、竹橋からがいつの間にか、「そんなに」と呼ぶ者あり）神田橋からの1.8キロ。まあこれは、実際にはすごい大変な、どっちかという、もう撤回したほうがいいんじゃないですかと、その地下化というのはと。そのくらいき

と難しい問題ではないかと。私は、撤回せよと言っているんじゃないかと、撤回してもいいくらいに難しい問題ではないかと。

○質問者B それはご専門の方にお任せするとしてですね、とにかく今私たちが、区民、市民が一番の要望、必要な情報ないしは活動ないしは実際のビジョンは防災ですよ。それで、先ほどの発表の中に、水上タクシー、私はあれを実際に見たことないんですね。で、何台ぐらいあって、どのように活動して、そして駅はどこにとまるのか。そういうのを本当に何か水上タクシーマップみたいなものをつくっていただいて、早いところ、もう、1秒でも早く防災のシステムをつくってほしいですね。それだけです。

○阿部氏 はい。今のタクシーのことで、私が知り得る範囲のことをお話し申し上げますと、今、都内に水上タクシーという名前をつけているのは、3台しかありません。恐らくそれが4台になるか5台になるかということなんですが、ただ一方では、これを予約するために3日ぐらい前に予約しないとというならば、船着き場も限定されていて、だからタクシーとは、名前はタクシーがついていますが、決して今タクシー機能を持っているというものには、まだまだほど遠い。で、それには、いろんなこう、要は河川部側の船着き場の利用の規制の問題ですとか、あと港湾もそうですが、いろんな取り決めがなかなか開放されていかないということで、まだまだつまずきがある、と。

ですから、やっぱり区民、市民の皆さんがどんどんやっぱり声を上げていかないと、この門は開きにくいという問題がさまざまにまだ残っているというふうに認識しております。

そのほかの質問、ございますでしょうか。

どうぞ、後ろの方。

○質問者C モリヤマと申します。富士見町二丁目の者です。

今、水陸両用バスというのがありますよね。それで、この水辺利用の場合、船だけじゃなくて、直接何ていうんですか、水陸両用のバスで、何ていうの、道路も走れるし、水の上というんですか、水路の上も走れるという、そういうような構想というのはないんでしょうか。岡田さんにお伺いします。

○岡田氏 今、ちょうど東雲運河のところの東電堀といったところが、ちょうど豊洲の市場の手前にあるんですけど、そこに初めてこの湾岸地域で日の丸交通さんがスカイダックというのを運行しているんですよ。豊洲の駅から2キロぐらいなんですけどね。もう10年以上前から、三井不動産さんのNPO法人の日本橋地域ルネッサンスの100年委員会のほうで、かなりそういったスカイダックのような水陸両用を日本橋川に浮かべたいということで、もう10年以上前から日本橋のほうでも検討をして、そして今どういう—あのね、米軍の上陸舟艇を持ってきて、あれならできるだろうということとか、いろんなプランを考えたんなんですけど、結局、今の護岸がそういったのに非常に難しいということで、日本橋川と神田川については、ほとんど今できないんじゃないかという形になっていますね。現状ではそういうことです。

○阿部氏 はい。ありがとうございました。

そのほかございませんか。

はい。後ろの方、どうぞ。

○質問者D 何だっけ、神田のプロジェクトの石渡と申します。（発言する者あり）保科

部長にちょっと質問したい。(発言する者あり) よろしいでしょうか。(発言する者あり)

この区民集会は、昔、バブルのときですね、あのときから固定資産税と相続税の反対のデモをやったぐらいの集会なんです。で、これ、区民集会で、ここで議論するということは、大体区民の総意だと思うんです。それと、先ほど岡田君が言ったように、これは議員のプロジェクトですか、議員連盟、議連というんですか、それが一緒になってやるという。

そうすると、保科部長ね、これだけ区が全部が乗っているこのプロジェクトとか区民の総意、それをもっと早くやっていただきたい。ただ、先ほど保科さんが説明したように、少し進んでいるんですね。だけど、もっと早くできないのかと。せっかくだから。

それと、僕はもう10年から20年ぐらい前から神田川を泳げるようにしようと言っているぐらいなんです。だから、あそこをね、今、かいぼりとかなんとかテレビでやっているけれど、ああいうのでうまくボランティアを、まあ有志。それでやれば、もうちょっとマスコミも乗ってくれて、ただでできるかも。

今、千代田区は基金も1,000億はあると威張っているけれど、だけど、もっとそれを使わなきゃだめなんだよ。(「そうだ」「そうだ」と呼ぶ者あり) ためておいちゃだめなんだ。(「そうだ」「そうだ」と呼ぶ者あり) だから、せいぜい500億出してくれれば、私がやろうじゃありませんか。(発言する者あり)

じゃあ、ちょっと保科さん、総意でやっているこういう水辺のことを保科さんはどういうふうに考えているのか。これで動かないのか、これで動くのか、よろしく願います。○保科環境まちづくり部長 早くやれというお叱りだと思っております。そのこと自体は受けとめさせていただきたいと思えます。

遅いということでございますけれども、ご案内のとおり私どもも一生懸命やらせていただきました。ただ、先ほどの外神田の計画につきましても、どうしても関係との調整等々で非常に時間がかかる。で、まちづくりにつきましては、もう正直申し上げて、10年仕事でございます。

ですから、それを少しでも早くするためには、議会も含めて地域の皆様方のご支援がこれも必要不可欠ということでございますので、ぜひご支援賜ればと思っておりますので、その辺でご理解いただければありがたいと思えます。(発言する者あり)

○阿部氏 なかなか厳しいご質問で、答えるほうも答えにくそうな雰囲気がありますが。

余り時間がない中で、実は議員さんから何にも質問が出ないということで、どなたか議員さん。どうぞ。

○小林たかや議員 区議会議員の小林たかやです。

今、るる船着き場の中で、防災船着場が千代田区に三つあるという中で、一般に開放されたり使われているのが和泉橋の船着場です。再三に願います。和泉橋の船着場は、防災船着場といっても防災対応がなされておられません。バリアフリーが一切されていないんですね。そこで、防災、何かがあったとき、防災として、防災船着場として、本当に使用ができるのかと、再三ですね、本会議でも4回——もっとしているな、しておりますけれども、受けとめていただいているだけで、実際にとめている、受けとめているだけで、動いておりません。大きな話をしているんじゃないんです。外神田一丁目計画を進めろと。いったって、進みません。

しかし、一つの今動いている船着場、和泉橋、たくさん、先ほど岡田さんが言っていましたように何万人も使うところですよ。そこで、多分障害者の方や車椅子の方が乗れたのでしょうか。かなり難しかったと思います。障害者の方や車椅子を使う方。足の不自由な方も船に乗って、遊覧ができたり、もしくは防災のときに利用できるような整備をただの1カ所でもいいので、バリアフリーを含めて、していただけないでしょうかという質問であります。

○阿部氏 これは、保科さんに対するご質問ですよ。

少し私、途中引き取って解説させていただくと、今、都内にある130カ所の防災船着場の中で、船からおりて病院までスロープがずっとつながっているとかがバリアフリーになっているというのは、10個あるかないかぐらいしかないんです。で、ほとんどどこかに階段があったり、あとはフロートじゃない。あと、フロートであっても寸法が、高さが40センチから1メートル20センチぐらいまであるわけです。それで私が、どの船をここに付けるつもりだったのかなという、要は発注者側の設計条件がほとんど決まっていないう中で、ただつくったのかもしれない。その代表が和泉橋の防災船着場かもしれないということで、ここで、また保科さんにちょっとバトンタッチさせていただきます。はい。

○保科環境まちづくり部長 はい。もうこれは、本会議でも何度もお答えさせていただいた中身になってしまうんですが、千代田区内に3カ所船着場がございます。で、最大の課題は、日本橋川、神田川がいわゆる干潮河川といまして、潮の満ち引きで水位が上下してしまう。で、フロート式の栈橋をつくらなきゃいけないわけですが、当初、新三崎橋の防災船着場もフロート式でつくったんですけども、大雨で急速に川の水量が増水してしまって、壊れてしまったということがございまして、今現在、フロート式なのは、和泉橋の防災船着場のみという状況でございます。

先ほど水陸両用車というお話もありましたが、バックヤード等があれば、そういう整備が十分可能なんです。ところが、ご案内のとおり、あのスペースの中で、いわゆるバリアフリーのスロープをつくったりというスペースがちょっとないという状況です。

ですので、そこは、ご指摘は十分受けとめているわけでございますけども、物理的な整備の困難があるということで、で、きょうほかのパネリストの方々もいろんなご意見、考えました。とすれば、どういう形をすればしかるべき整備ができるのかと。そこはちょっと課題ということで、きょうのところは受けとめさせていただければと思います。よろしくお願いたします。

○阿部氏 時間がそろそろ押してきましたが、最後にお一人だけということになりますけど、よろしゅうございますか。

じゃあ、はい。

○質問者E 千代田区民の北城と申します。

水辺の利用についてということで、非常にありがたく楽しいお話なんですけど、高松さんなんですけど、「豊かな都市をつくる水辺と都市観光」の中で、「成熟都市にふさわしい都市の魅力・活力の向上」ということで、「豊かな水と緑」と書いてあるんですよ。水辺も江戸時代からもう江戸城とも水のかかわりもあるんですけど、この中の緑ということも考え方の中に入れてほしいんですけども、例えば街路樹とか公園を運用している。この辺も豊かな、ふさわしい、成熟都市にふさわしい都市の魅力という中で、水辺もなんです

が、緑の施設が入っていただきたいということです。いかがでしょうか。

○高松氏 よろしいですか。はい。それでは、私のほうからお答えしたい。

私は実は東京都公園協会の公園事業部長というのをやらせていただいて、緑をどうやってふやしていこうかという仕事も、ちょっとやらせていただきました。

で、都市に必要なのは、まさに水と緑。なぜかという、これが都市の景観と豊かさをまさに象徴的にあらわしている。そういうところには、海外から優秀な人たちが集まってきて、この都市が活性化する、そういう要因になるということなんです。

水は、歴史的に東京はたくさんある。で、緑も実はたくさんあったんですが、東京の都市って、実はよく見ると、緑は貴重な緑がたくさんあるんです。ただですね、ただ、残念ながら、少し大きな緑を俯瞰して、例えば東京のグランドデザインを考えたときに、どこに緑を配置しながら、じゃあまちをこういうふう形成していこうかというところが、残念ながらそういう視点が非常に少なかった。これ、やったのは、実は震災復興のときの後藤新平の計画にはあったんですけども、それ以降はあんまりなされていないんですね。そういう計画を実はつくらなきゃいけないんだろうと思っています。でも、でも、小さいところから、例えば再開発を今盛んにしていますけれども、そういう中で緑を生み出していくことは可能なものですから、そういうものと緑と水を合体したようなまちづくりというのを、これは地域の方々と一緒になって、ここも大事なんですけれども、地域の方々と一緒になって提案をしていくことはもう十分可能だというふうに思っていますので、それが大きな資産を生かすことになるんだということを十分に考えながら、そういうものをつくっていったらいいなというふうに思っています。これは可能ですし、やりたいと思っています。よろしくをお願いします。

○阿部氏 どうもありがとうございました。

もう4時が、あと、もう数分でなっておりますんで、これで質問をちょっと切らしていただきまして、最後にパネラーの方々から、言い残したことという、これはまた何分とるかわかりませんので、これから水辺のことを皆さんと一緒に考えるキーワードとして、一言二言、本当に一、二分で、それぞれの方からおっしゃっていただきたいと思います。

じゃあ、こちら、木下さんからどうぞ。

○木下氏 すみません。先ほど日本橋の話が出まして、やっぱり日本橋が、高速がなくなるということに対して非常に期待を持って、まあ私もその一人なんですけれども。実は、日本橋がなくなったことで、そんなに期待ができたほどの景観ができるかという、そうでもないような気がするんですね。

私は、日本橋を消してスケッチをしたことがあるんです。つまり、今の日本橋の上に高速がある。それをなくした景色を描いたときに思ったんですけども、何十年か日本橋の上に高速があるままで、まちができてきているんですね。これはやっぱり建築家も含めて、ありきで景色ができてきたのを放っておいたんですね。ですから、今取るとどうということかという、霞が関でも赤坂でもどこでもいいような景色の絵になったんです。これはむしろそれが普通のことであって、なくなってから先、これから50年、60年が景色一つをつくっていくのが大変だなという。

つまり、都市計画というのは、何か大きな課題が要ります。題目が要ります。しかし、それがなくなったからといって安心できるものではなくて、非常に長いスパンで100年、

200年というスパンで物を考える。先ほども申し上げましたけども、自分の役割をそれぞれの立場で何ができるかと。人間の一生は短いですから、それをやっぱり考えていくことが今一番大事なかなと思います。

まあ、すみません。これぐらいで。

○阿部氏 今の木下さんのお話で、たまたま先月号の「東京人」の中で、高速道路の撤去の問題が書かれていまして、その中に、ちょうど我々が提供したキーワード「日本橋に空が戻って、その向こうに一体何が見えるのか」というのが、きっと今の木下さんの指摘だったのではないかと、そんな表題で記事が書かれていましたのでご紹介しておきます。

それじゃあ、高松さんからどうぞ。

○高松氏 はい。実は、今のことをずっと追いかけていまして、別に。私で。学識経験者、学校の先生なんかも、大学の先生なんかも呼んで、4回にわたって意見交換会をやらせていただいています。もっとフラットで、みんなが意見を出し合うようなまちづくりをしようね。そのいい材料というか、失礼だけれどもすごく大事な材料になるんだろうというふうに思って、そんなことをやらせていただいていますので、また12月の頭ぐらいになるかもしれませんけれども、代表会を、今、企画しようとしていますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

私からは、皆さんのお手元にありますように、ぜひ、この千代田のまちが、人口は一時すごく減りましたが、またここで回復してきたので、新しい方々も含めて皆さん方で、この千代田のまちの新しいコミュニティづくりをやってほしいというふうに思っています。これが千代田のまちの活性化にすごく大きな力になる。

その一つの材料として、先ほど上げられたように、緑と、そして水なんですね。これを材料にして、皆さんでコミュニティづくりをぜひやっていただけたらなというふうに思っております。

以上です。

○阿部氏 どうもありがとうございました。

それじゃあ、岡田さん、一言お願いします。

○岡田氏 すみません。

私は、さっきも伊東先生が、るるお皿の常盤橋の保存のことをおっしゃっていたように、やはり私たちの身の回り、特に千代田区にあるこの震災復興の橋梁群を、やはり都市のそういったモニュメントとして保存していくと。例えば関東大震災の後、わずか6年で、世界の最先端の構造を適用して、モダニズムの建築デザインを利用した、世界に類を見ないバラエティーに富んだ橋梁群が、我々の身の回りにあるわけですね。

例えば東神田の美倉橋というところ、東神田の町会ですけども、そこなんかは、例えば防災倉庫があって、交番があって、そして公衆のトイレがある。これは、関東大震災の後の復興事業の3点セットとして、そういうものを附置していった、橋梁群につけていったという、そういった95年前のそういった防災の思想というのが、いまだに私たちの神田ですとかそれから飯田橋、そういった地域に残っているわけですね。

ですから、そういった橋の記念碑として、例えばさっき保科部長がおっしゃった竜閑さくら橋の手前にある外濠アーチ橋といってコンクリートの橋がありますけど、あれは大正7年にできて、関東大震災でもびくともしなかったコンクリート橋なわけです。

そういったまちの資産というもの、防災の資産それから近代橋梁の資産というものがやはり数多く千代田区にあるわけですから、それをやはり防災インフラとして世界に類のない防災都市千代田だということで、それを利用しながら、私たちのそういった貴重な文化遺産を保存していきたいということで、また皆さん方にもそういったご理解をいただきたいということをお願いして終わりたいと思います。

○阿部氏 ありがとうございます。

最後は、保科さんから。

○保科環境まちづくり部長 私からも一言でございます。

まさにきょうのご報告させていただいたタイトルどおりで、これまでまちづくりというのは、濠とか川に背中を向けていたんじゃないかと。で、「濠や川に顔を向けたまちづくり」と命題させていただきましたが、まさにそれが水辺の利活用のスタートラインなんじゃないかなというふうに考えてございます。

○阿部氏 どうもありがとうございました。

4時、少し過ぎてしまいました。これを、時間を過ぎたのも、ちゃんと質問タイムを十分とれなかったものも、全てコーディネーターの責任ということが通例でございます。まずはおわび申し上げます。

で、先ほどちょっと申し上げましたように、今月の20日——来月11月20日、下の区民ホールで、要はコンペの公開説明会があります。これはいろんな考え方、ああ、こういう考え方をしているんだということが応募した方々から提起されます。これはまたいろんなこれからの水辺のまちづくりのヒントになろうかと思えます。特に、千代田区長賞というのが設けられていまして、さあ、区長賞に一体どれがノミネートされるのかというのも、実は私も審査員の一人として楽しみにしているところでございますので、ぜひこのきょうの集会の第2部という形で、それにまた皆さんのご参加をいただいて、恐らく審査員だけじゃなくて皆さん方からの質問も出せるんじゃないかと思っております。ぜひ公開の審査会というのを充実したものに協力いただければと思って、私の締めさせていただきます。

最後に一言、では。「陸からは実は川は見えない。けど、川からはまちがよく見えるんだ」ということをもう少し皆さんと共有できて、新しい水辺のあり方というのを追求できればと思って、きょうのシンポジウムを終わりにさせていただきます。4人の先生方にまた拍手を。（拍手）ありがとうございました。

じゃあ。

○松本座長 パネリストの皆様、どうもありがとうございました。また、皆様からも貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

水辺に人々が集いにぎわうためには、この水辺の利活用について、さらに認識を持って、私たちこれから進まなくてはいけないということを再認識させていただくことができました。

2年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、海外から多くの観光客が訪れます。また、大会も世界に向け放送されることから、それまでに水質改善に取り組むことだと思っております。

つきましては、お手元に配付してございます要請文を作成してございます。本来読み上

げるところでございますが、時間の関係で、皆様、どうぞ後ほどお目をお通しなさいまして、何かご意見がございましたら、事務局のほうにお寄せいただければ、そのご意見を生かさせていただきたいと思っておりますので、お手元の案文を、どうぞお目をお通しくさいますよう、重ねてお願い申し上げます。

そして、当協議会といたしましては、この要請文を関係機関に対して要望したいと思っておりますので、そのことについて皆様のご賛同をいただけますでしょうか。（拍手）

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

本日は本当に長い時間、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。いま一度パネラーの先生方に盛大な拍手をお願いいたします。（拍手）

ありがとうございました。どうぞ皆様もお気をつけてお帰りください。長い時間、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

午後4時11分閉会